

LION'S



Lions Club International District 333-C

HELP-PHILIPPINES

フィリピン・セブ島台風30号被災地報告

アジアは一つ

第52回東洋東南アジアフォーラム参加レポート

2013

Vol.

2



ガバナーチーム鼎談

『多面的ライオンズ像の創造』

Kisarazu Kaneda seashore / Aqua-Line and Umihotaru



LIPPINES

地区緊急アラートチーム

フィリピン・セブ島台風30号被災地報告
あなたの募金で
被災者が生き延びられる!!

【文 第二副地区ガバナー L吉原稔貴】

11月8日の午前、私たちがシンガポールでOSEALフォーラムの開会式を迎えようとしていた頃、中心気圧895ヘクトパスカル、最大風速90メートル、最大瞬間風速105メートルという最強の台風30号（ハイアン）が、フィリピンのビサヤ地方のサマル島南部、レイテ島北部、セブ島北部、パナイ島北部と周辺の島々を次々に襲っていたのです。

333-C地区（千葉県）の地区ガバナーL正木守は、シンガポールから帰国した翌日の12日、ガバナーチームにより「台風30号によるフィリピン被災地への地区緊急災害対策本部」を立ち上げ、16日から19日の日程で、被災地である301-B2地区（ビサヤ地方）の中心都市セブに、地区緊急アラートチーム（私、L松本宰史地区アラート委員長、通訳として家内〓中国系フィリピン人）を派遣することを決断されました。

なぜ、セブなのか・・・当初、レイテ島では治安・衛生状態が悪化して、海外の民間団体が入れる状況でなく、セブ島中部の南側に位置するセブ市は被害が少なく、飛行機の発着もほぼ平常通りで「安全」だということ。

なにより、今年3月、L正木第一副地区ガバナー（当

CONTENTS

HEAD NEWS

HELP PHILIPPINES

フィリピン・セブ島台風30号被災地報告

第52回東洋東南アジアフォーラム

シンガポール大会

- | | |
|----|--------------------------------------|
| 4 | ・・・フィリピン台風 |
| 6 | ・・・第52回東洋東南アジアフォーラム シンガポール大会 |
| 10 | ・・・ガバナーチーム鼎談『多面的ライオンズ像の創造』 |
| 20 | ・・・ファミリー会員の増強について |
| 23 | ・・・YCE派遣生座談会 |
| 29 | ・・・ガバナー公式訪問 |
| 36 | ・・・リジョン・トピックス |
| 39 | ・・・献血推進研究会 |
| 42 | ・・・薬物乱用防止教育認定講師養成講座 |
| 44 | ・・・L.C.P (千葉県ライオンズクラブ バンボジア支援プロジェクト) |



今期のガバナーマークはピン・パナー共に「竜」があしらってある。これは日本がGHQの被占領下からサンフランシスコ講和条約によって国家主権を回復し、併せて日本初のライオンズクラブである東京ライオンズクラブがフィリピンのマニラライオンズクラブによってエクステンションされた年、また、L正木守地区ガバナーの誕生年である1952年(昭和27年)が辰年であることに由来する。また、パナーの竜が五本指で玉を持っているのは、ガバナー重点目標5項目を意味している。



表紙の写真

木更津金田海岸からの東京湾アクアライン
千葉県木更津市と神奈川県川崎市を繋ぐ東京湾アクアラインは、川崎側の9.6kmがアクアトネルと呼ばれる海中トンネル。木更津側の4.4kmがアクアブリッジと呼ばれる橋になっており、その境の人工島には海ほたるPAが設けられている。全長は15.1kmであり、1989年に着工、1997年に開通した。圏央道と共に首都圏3環状道路の一番外側を担う路線であり、10分程で木更津と川崎を結んでいる。

写真提供 金萬智男氏(木更津市在住 漁業)

46	・ ・ ・ ・ ・	ふぜクラブは弱体化するのか、
50	・ ・ ・ ・ ・	第2回キャビネット会議報告
51	・ ・ ・ ・ ・	FACEBOOK使ってみませんか？
54	・ ・ ・ ・ ・	地区年次大会へのお誘い
56	・ ・ ・ ・ ・	行事予定、参加のお誘い

地区情勢

編集後記

フィリピン・セブ島台風30号被災地報告



こうして12日に派遣が決定された

後、現地ガバナーとの交信、航空券・ホテルの手配、Facebookで募金活動

を行い、15日開催の対策会議にて地区緊急災害援助資金から義捐金300万

円に決定。募金と合わせて約330万円をドルに両替して、災害から8日目、

フォールムから帰国して5日後の16日午後、直行便で成田を飛び立ちました。

夕方、セブ・マクタン国際空港で、東京世田谷LCのL田中文太郎の奥さ

までマニラ・ホストLC会員のLジェニファー・バディリア、現地キャビネットの皆さまと合流。さっそく、翌日、

セブ島北部被災地に配布するリリーフ・グッズ（一家族が数日間生き延び

られるお米・ビーフンなどの食料&衣類&水をまとめたパッケージ、ひとつ

200ペソ（約500円）の袋詰め基地（会員の倉庫・作業場）2カ所を視

察。たくさん若い会員たちが、家族を動員して、袋詰め作業に汗を流して

いました。

日曜日、午前7時にホテルを出ましたが、被災地に向かう一本道は信号機

が一つもなく、支援物資を運ぶ車で大渋滞。わずか100キロほどを5時間

かけて北上。台風に直撃された最北端の街ボゴで、先発隊と合流。市内3カ

所のバランガイ・センター（フィリピン独特の地方自治組織）での配布に私

たちも参加しました。

現地では、家が吹き飛ばされ、生活の糧であるバナナ、ココ椰子、サトウ

キビ、とうもろこしが壊滅したため、食料を自給自足できない状態の住民た

ちが途方にくれている・・・はずでしたが、人々の表情は一样に明るく、治安も安定していて、リリーフ・グッズ

の配布に「ありがとう」と、満面の笑顔を見せてくれました。

月曜日、午前中に持参した義捐金の贈呈式を行い、午後は被災地タクロ

バンから避難民3500人を分散して受け入れている緊急避難所2カ所を慰

問。避難所は一カ所あたり250名ほどが収容されていました。そこには、

台湾からの医療チーム、韓国からテレビと無料洗濯機、無料電話、十分な量

の水、食料がありました。

私たちは「慰問する避難所の子ど

もたちにお菓子と甘い飲み物とカップ

麺を配布したい」と考え、市内のスーパーマーケットにお菓子5種類を含む

200セットを買い出しに行きました。

私たちの予想通り、避難所の子どもたちは大喜び。笑顔を生むよい支援活動になりました。

このように、セブのキャビネットでは、地区内各クラブのチームワークにより、災害発生直後から迅速かつ効率よく、「リリーフバッグの作成と配布」と「避難所への人道的支援」の2本立てで、地道な支援活動をしています。

リリーフバッグは、最初の1週間だけで15,000セットをセブ島北部と周辺の小島に配布し、避難所支援では、受け入れ開始初日から3,500食の焚きだしを行ったのだそうです。

私たちが持参した「義捐金」は、軍が入り治安の安定してきたレイテ島西部のオルモック市などでのリリーフ

バッグ6,600個の配布に役立ちましたが、メディアがレイテ島タクロバンだけを取り上げた影響で、軍、医療、

支援物資、義捐金がタクロバンに集中してしまい、東日本震災直後、津波

の被害が大きかった茨城県、千葉県に支援が届かなかったように、セブ島に



あなたの募金で被災者が 生き延びられる!!

はほとんど廻っていないことが問題でした。
また301-B2地区「ビサヤ地方は、被災エリアに数千の島があり、物資の輸送がとて難しい。政府・行政・海外からの支援の届かない被災地では、生活の糧であるバナナ・ココ椰子・とうもろこしなどが回復するまで、

少なくとも数ヶ月間、食糧支援が必要です。
500円でできる「リリーフ・グッズ」ひとつで、一家族が数日間生き延びることが出来ます。フィリピン家族のひとりとして、みなさまのあたたかいご支援を心からお願い申し上げます。

333-C地区 緊急災害支援センター 義援金のお願い

去る11月8日に台風第30号で被害を受けたフィリピン支援のため、11月14日第3回地区緊急災害対策本部会議が開催され、300万円の義援金を拠出することになりました。つきましては、地区緊急災害支援センター資金補てんのため、任意によるメンバー1人当たり3,000円以上の義援金をお願いすることとなりました。左記のとおり指定口座を開設致しましたので、ご協力をお願い申し上げます。

金額：3,000円以上/メンバー1人当り（任意）

振込先：千葉銀行 本店営業部

普通預金 3916793

ライオンズクラブ国際協会333-C地区

地区緊急災害支援センター

会計 牧野 稔（まきのみのる）

※クラブでお取りまとめの上、クラブ名にてご送金下さい。

振込期限：2014年1月15日

O S E A

第52回

東洋東南アジアフォーラム

シンガポール大会





アジアのエキゾチックさの中にも洗練された近代都市の趣があるシンガポール。多民族国家として、そしてアジアを代表するビジネスセンターとしてゆるぎない地位を築いている。そのシンガポールで第52回東洋東南アジアフォーラムは開催された。

【文・写真 地区情報委員長 L平野寛明】

第52回東洋東南アジアフォーラム シンガポール大会 参加レポート

東南アジアを代表する港町シンガポール。国名の由来はサンスクリット語で「獅子」を意味する「シンハ」であり、シンガポールはマレー語では「ライオンの街」を意味する。まさにライオンズに相応しい街である。11月8日〜10日に行われたオセアルフォーラムの模様をレポートでお知らせする。

〔文・写真 地区情報委員長 L平野寛明〕

暑い熱い

シンガポール

私事で恐縮だが、小生は巨漢である。その巨軀をエコノミーシートに7時間半埋め、到着したのが赤道直下の港町、シンガポール。因みに飛行機の隣の席には、少々大柄なキャビネット副会計が座っておりました。そういった苦勞の末に着いたシンガポール。赤道直下にある淡路島ほどの島である。人口は541万人。島がまるまる都市国家と言っている国だが、まことに暑い。そして熱い。赤道直下であるから気温が高いの言うまでもない。そして人々の熱気が熱い。なにせ97年のアジア通貨危機や、ついこの前のリーマン・ショックでも深刻な影響はなく、却って世界中から投資マネーを呼び集め、まさしくアジアの成長センターというに相応しい熱さなのである。

オセアルの会場となったのは「マリーナベイ・サンズ」。3つのタワーに2600室以上の客室があり、カジノ、ショッピングセンター、コンベンションセンターが併設されている。そのタワー間に横たわる形で、最上階地上200メートルにプールがある。いま、シンガポールで最も暑い観光地である。会場にいても、誠に思ひ出に残るフォーラムであったといえる。

アジアのライオン 一堂に会す

実は初のオセアル参加である。アジア中のライオンが一堂に会する大会。それだけでも国際的な団体に所属しているのだという実感が湧く。開会式ではコンベンションセンター中央の花道を、グアムを先頭に台湾、フィリピン、香港、タイ、日本、韓国、中国、最後

に開催複合地区であるブルネイ・マレーシア・シンガポールと各複合地区のガバナーやガバナー協議会議長が入場する。そして国際理事や国際会長、最後にトニー・タン シンガポール大統領が入場して開会式が始まる。各国のガバナーが入場する時が、会場の熱気が一番熱くなる時である。控えめな国から少々熱しすぎではないかという国まで。

オープニングセレモニーはシンガポール文化構成を4つのダンスで表現したもの。マレー・ポリネシアがベースのダンスから、ペルシア系のエスニックなダンス。主に客家系が根底をなした中華系舞踊。そして英国植民地時代のモダンを表現したソシアルダンス。これらが渾然一体となって成熟したのがシンガポール。言葉が解らなくてもなんとなくそうわかる、素晴らしい開会式であった。



→会場となったマリーナベイ・サンズ

←開会式に入場するL正木ガバナー夫妻



フィリピンを救おう

開会式での入場行進。フィリピンの

行進の最中に見覚えのある顔があった。昨年度のレオ研修でフィリピンのセブ島を訪れた際、現地で受け入れをしてくれたセブ島の第一副地区ガバナリーである。とっさに「リメンバリー？」と問いかけると「オフコース」と返してくれた。国際会長も開会式スピーチの中で何かがフィリピンで起っていることに触れているのは稚拙な私の英語力でも解ったが、具体的なことは解らなかつた。今振り返ってみれば開会式が行われていたあの時、11月8日にレイテ島に巨大な台風が襲っていたことになる。今にして思えば迂闊な問いかけであったが、あの時はまさかあれほどの天災が起っていると

は想像もつかなかったのである。恥ずかしながら事態を理解したのは、二日目の夜の国際会長晩餐会である。バリー・パーマー国際会長が晩餐会でのスピーチの冒頭、フィリピンに対する緊急援助資金1万3千ドルの支出を決定したとの報告と共に、フィリピンを救うためにオセアラル各国のライオンズで20万ドルの用途指定献金をLCIFにすべく、各ガバナリー協議会議長は壇上に登壇して誓約して欲しいとの問いかけであった。その問いかけに対して各国のガバナリー協議会議長がそれぞれ壇壇。金額を発表して誓約し、あるいはその場で小切手を国際会長に託す場合と様々であったが、日本を代表してL小坂橋欽也333複合地区ガバナリー協議会議長が、全日本のガバナリーを引き連れて登壇。15万ドルの献金を誓約して日本の存在感を示した形となった。



↑国際会長晩餐会でのバリー・パーマー国際会長。この夜の呼びかけで50万ドルのフィリピン救済LCIFがオセアラルで集まった。

↓L高木次雄国際大会委員長も大活躍。L大森副委員長と共に疲れ様でした。



↓333-C地区晩餐会は閉会式後の帰国当夜に行われました。シンガポール名物のカニのチリソースを肴に乾杯。



30万2千ドルの献金が誓約されたことが国際会長から発表され感謝が述べられると、台湾代表が再登壇し、その献金を50万ドルまで上乘せすべく台湾が努力する旨の再誓約が行われて、会場は更に盛り上がったのである。

この夜各国代表によって誓約された献金については閉会式でも披露され、L山田實紘国際第二副会長からも賛辞が送られた。まさにアジアは1つ。予期せずフィリピン救済一色となったシンガポール大会となった。

来年度の東洋東南アジア大会は韓国仁川。更なる大会参加に期待したい。



→L塚田元ガバナリーも複合地区役員として活躍。両副ガバナリーも連日の会議でした。

ガバナーチーム 本格始動中

平野 多面的ライオンズの創造というテーマでガバナーチームの皆さんにお話を伺いたいと思います。第一、第二副地区ガバナーができて、3年……

正木 3年目だね。

平野 3年目ですか。それで、ガバナーチームという考え方で、毎月話し合いをされているようですが、こういう形になったのは今期から？

正木 今年の4月くらいからです。

平野 今期も3ヶ月過ぎたんですが、ご感想はどうですか？

正木 今まで、ガバナーチームというおぼろげな形で、こう動かなくちゃいけないというものはあったんですけど、現実的にどうゆう形で動くのかというのが定まっていなかったし、理解できてなかった。で今回は、今までのやり方がいいとか悪いとかではなくて、ガバナーがガバナーチームとして動く。実は今まで

ガバナーチーム鼎談

多面的 ライオンズ像の 創造

語る人—

L 正木 守地区ガバナー
L 波木奏美第一副地区ガバナー
L 吉原稔貴第二副地区ガバナー
L 平野寛明情報委員長

司会

国際協会は「ガバナー必携」というのを出していたんですが、それが「ガバナーチーム必携」に変わった段階で、国際協会の考え方が変わったんだなという風に解釈して、お互いが情報の交換、動きやすいようなものにするために、「チームで動こう」という方針にしました。

平野 従来は公式訪問が終わって、さあと思ったら疲れて終わってしまふ。なかなか色も出せずに、またメンバーの方もガバナーの考え方を理解しきれずに終わってしまうことが少なからずあったと思いますが。

波木 私はほとんどの公式訪問をガバナーに付き添わせていただいて、いままで行った事の無いリジョンに全体的にいかせていただいたので、いい勉強になってます。それと、ガバナーの方針から重点目標など、もちろん熱く語られるから、当然ですけれども、キャッチコピーなんか「美しい村」とかね。それと「楽しくなくちゃライオンズクラブじゃない」みたいな、そういうフレーズで、各会員にインプットされる。それが素晴らしいんじゃないかなと思います。お話ももちろんですけれども、

なかなか、キャッチコピー上手です。(笑)

平野 インパクトが？

波木 ありましたね。インパクトがあります。今もみんなそう思って、活動していると思います。

平野 吉原第二副地区ガバナーはいかがですか？

吉原 私はねやはり、なんでライオンズクラブが成長していかないかというところ、ガバナーが1年頑張ってるけど、1年が終わる時は上手くいってるけど、次のガバナーになると0に戻って、また次のガバナーが頑張ってる、1年終わる頃には1になるんだけど、0に戻って、なぜうまくいかないかっていったら、いわゆる共有する物がないからなんですよ。

正木・波木 そうだね。

吉原 土台が共有されてない。単年度制の欠点で、多分国際協会はガバナーの力をつけるためには、リーダーシップトレーニングにもっと力

を入れなきゃいけない。それには、地区運営に副地区ガバナーの時から、現ガバナーを支えるという形で関わっていくという人材育成。そういう視点が国際協会にやっとできてきたんだと思います。

私は第二副地区ガバナーの立場ですけれども、非常に勉強になります。本当に色んな意味で細かい運営にまで関わらせていただいているので、いい時に第二副地区ガバナーをやらせていただいて幸せだなんて思っております。

平野 従来は日本で10万人、C地区で3500人という、相当大きな団体のはずなのに、統一的に動きが見えてこない。特に対外的な面ですよね。それが非常にもったいないなあと思うんです。そういう意味ではこのままこの流れが続いていけば、あるいは日本のライオンズクラブの会員数が減って低調なのかもしれないけれども、その割に従来よりもインパクトのあるものが継続的にやれる可能性があると思うのですが。

正木 私が思うのは、ガバナーチームが明るく楽しく面白くやっ

くのが伝わっていくんですよ。これがいびき合って、何だかんだ言ったら、広がりがなくなるんですよ。先程波木第一副地区ガバナーが言われてたことでキャッチコピーっていう風に、わたしなんか思ってたんですけど、「ああそういう見方があるんだな」って。あの叫びをガバナーに伝えてる。こんな風にしたいって参考になればいいと思うし、またそれぞれの色があつて、ガバナーチームがこれからずっと繋がっていく。それが会員に「ライオンズクラブって楽しいなあ」とか「アクティビティをやらなきゃ本当じゃないじゃないか」という風に出来ればいいと思っております。

波木 吉原第二副地区ガバナーがさっき言ったようにね、1年やって0になって、また始まる。

平野 何々ガバナーだったからじゃなくて、ライオンズなんだからC地区なんだからってことですよね。

正木 帯のつながりのごとく、川の流れのようにいきたいと思いますけどね

リジョンにも 文化の違いが

平野 両副地区ガバナーともに公式訪問も相当数、またご自身の本番の時もまた全部回られるんでしょうから大変だと思うんですが、いかがでしょう。やはりそれぞれのリジョンでやはり文化というか、雰囲気が違うでしょうし、それぞれ色々感じられる部分があったんじゃないのかと思います。

正木 確かに違いますね。例えばそ

このゾーンの事務局長っていう形にまず驚きましたよね。私の出た10リジョンにはありませんし、進め方も形がみんな違うんで、ゾーンチェアパーソンが試行錯誤しながらやっているんですよ。手探り状態です。

吉原 それやはりキャビネットの方で「こうゆう風にして下さい」と指導していった方がいいかなと。ガバナーの考えを知っていただくことが第一の目的ですから、そうできる進行にね。



◀ 正木守地区ガバナー

波木 コンパニオンを呼んだり、そういう経費があるからでしょうけども、私としては、自分が女性なので、ちょっと首を傾けちゃう所がありましたよね。(笑)それがその地方のお国柄っていうか、土地柄でそれは毎年やってて、これはやめたらリジョンのメンバーに叩き出されるからやるみたいだね。(笑)

吉原 おもてなしなんですよ。

正木 (笑) お、も、て、な、し、なんですよ。

波木 おもてなしって(笑)私ほだから、思いましたけど、一回各リジョンが同じような会費の取り方、ゾーン幹事を置かないとか。そういうこと一回やっていただきたいなってしみじみ思ったりしましたね。

吉原 僕はね、ちょっと逆なんですよ。多様性だなんて。330-B地区でダイバーシティ委員会っていうのを作った。L川手寅平ガバナーがおっしゃっているんですけども、あそこは神奈川と山梨の2県にまたがって運営してるので、お互いのやり方が全く違う。それをお互いが認

め合わないって喧嘩になってしまうということがあるって、だから多様性委員会というのが出来た訳です。各地域の多様性はいいんじゃないかなって。そして確にかつてゾーン費の問題、リジョン費の問題。そしてゾーン幹事の問題っていうのはかなり強く叫ばれて検討したけれども、それぞれやはり地域のやり方というものとは地区があまり強く言っても駄目というか喧嘩になるので、そこは柔らかくご理解いただけるのを待つし言い続ける。

波木 ただし、ガバナー公式訪問ですから、ガバナーが所信をメンバーに伝えやすいような設営にはしなくてはいいですね。

正木 それでいいと思う。

吉原 要はライオンズクラブって、運営のためにやっているのではなくて、奉仕するために運営をしているので、その運営の部分については、多少の柔軟性があっても、別に必携に抵触している訳ではないので、いいんじゃないかなと。

正木 女性ガバナーが出るでしょ。

多面的ライオンズ像の創造

女性ガバナーが出て、コンパニオンを呼んじやいけないとか、2次会に行っちゃいけないとかいう風な事を。

波木 言いませんけどね(笑)

正木 各リジョンの文化や自主性にある程度はお任せしていいと思う。だけれどもきちんとメンバーにガバナー自身が考えを伝える場だけは整えていたきたいんだよね。

波木 ガバナーが何を伝えたくて何を知りたがっているかということ、それははっきりゾーンチェアパーソンがクラブ会長に伝えなきゃいけないですね。

吉原 ガバナーとクラブ三役の情報交換会でもいいと思う。それでその次にみんなとやる訪問例会。公式訪問例会だから、そして懇親会があってもなくてもいい。それを楽しみにしているところが。

波木 ここからが本番だっていつてましたねえ。(笑)

正木 ここが本番(笑)。その前に

4時間以上やっているのに、「これからが本番です」っていつてた。

吉原 色んな文化があるから。

平野 やはりまずは公式訪問ですが、なるべく大勢のメンバーの方に集まっていたくという筋がまずないことには、ここにいつて何をしようと言っても。

正木 参加者が三役のみのクラブもありました。しかし諮問委員会ではなくて「合同例会」なんですよね。そのところを考えていただきたいと思えます。

平野 やはり公式訪自体がマンネリ化しているんでしょうか。

正木 マンネリ化、形骸化して、「ガバナー来るから暇な人は来てよ」程度になっているのは確かでしょう。

吉原 みんなで相談して、みんなが楽しいようにしていかないと。

波木 今回の公式訪問で印象に残っているのは、「ガバナーの話聞いて、辞めること止めました」ってメ

ンバーがいたのね。

吉原 僕もその話聞いて感動しました。だからガバナーの挨拶とか、説得力っていうのは、ものすごく地区を回る事は大切なんだと思いました。

平野 140クラブ以上の会長と会われたと思うんですけど、このクラブはSOS出してるなとか、うまくいってるなあってことも感じられるところも？

正木 わかります。本当にわかる。

そして時間さえあればそのクラブ行きたいって思うくらい。SOS感じます。周りの人に語れないSOSがあるんですよ。そこに手を差し伸べるのが、ガバナーの仕事じゃないかと感じますね。

吉原 だから規律をビシッとしていくガイディングを育てて、クラブはこうすべきなんだという勉強会を全体にしないといけないですね。

正木 あと感じたのは、ゾーンチェアパーソンも初めてなんです。だ

←し波木奏美第一副地区ガバナー



から行く側も受ける側も、初めてと

初めての人がやるから、そしてガバナーチームの凄い所は、それを見てから、今度の第一副ガバナーは全部回るのが2回目なんです。で私は第二副ガバナーも全部回れとはいいません。っていうかね3年はね、大体ガバナー公式訪問が終わると、病気になる人が多いんですよ。(笑)1年だけでもね。2年やっても厳しいと思うけど、3年やったら確実にガバナーに辿り着く前に、力尽きるかもしれない(笑)

吉原 私がすでに風邪引いてるからね。

正木 第一副地区ガバナーの、し波木ガバナーは、「行ける時に私は行きたい、全部行きたい」っていう想いがあつたんで、それでやってみて、そうすると、ここのリジンはこんなんだって、もう見てる訳ですよ、だから次年度の三役研修にしても、ゾーンチェアパーソン研修、キャビネット研修にしても、ガバナー公式訪問は、こうすること風になんに指導出来ると思います。

波木 しなくちゃいけないってこと

が、わかりました。

吉原 そういう意味では、ゾーンチェアパーソン予定者研修会が重要ですね。

波木 ゾーンチェアパーソンは各ゾーンで決められるんでしょけど、個人の能力に関わらずゾーンが運営できる枠組みは研修していただかないといけませんね。

吉原 単年度ガバナーの弊害と同じ問題意識ですね。ゾーンチェアパーソンもなれた頃には終わってしまう。

平野 いまお話しを伺っていると、こういった問題点までガバナーチームで共有されていて素晴らしいと感じました。これで顔見せ興行が一通り終わったという所だと思んですが、下期に向けて走り出していく時に、し山田實紘第二副地区会長が家族会員及びファミリー会員を増強して、10万人いる日本の会員を20万人に増強したいという強い希望を発表されたことですが。

正木 はい。それも来年の6月の末



→ 吉原稔貴 第二副地区ガバナー

までにね。

波木 つまり今期中に

吉原 それこそ凄いインパクト

正木 その後は、それを維持しなきゃいけないからね。彼もぐらついているのがよくわかる。「アイデンティティを語る会」というのが8月23日にあつてと。その時に何気なくいったんだよ。20万人にすると。今、黒船がきたと、維新なんだと。立ち

位置の違う物の見方をしないと、このままですると会員は減って日本のライオンズクラブが弱体する一方だと。そこに彼は一石を投じると言うよりも、黒船襲来。国際会費を5,000円出せば、1人いれられるから、10,000円会費が上がったと思つて家族会員を2人入れてくれといわれて、私は会員増強はできて、10万人が今年入つて、来年13万人やめたらどうするんだつて考えました。組織の崩壊、準地区が空中分解しやしないかと。そう質問したら

多面的ライオンズ像の創造

L山田に怒られましたが。

平野 当然日本から2人目の国際会長ですから、それを応援したいというのがありますが、さはさりながら基本は単一クラブであり、準地区の運営があつての国際協会だと思えます。それをいかに整合させるのが問題です。

正木 C地区としては、L山田国際第二副会長がいわれている「国際協会にのみ、会費負担をする家族会員」をファミリー会員と称して、従来のいわゆる、クラブに対しての義務を負う家族会員とは分けて考えることとしています。

吉原 今回、全体を第二副地区ガバナーだから、ある意味無責任で気楽に拝見してる身の上としての感想としては、L山田の言っている事は、凄くあつてゐる。会員を増やさなきゃいけないね、つていうにはインパクトのある、何かしら新しい方法を投げ込まないといけないねつてことは確か。

波木 日本のライオンズクラブはだめになる。そういう危機感を持つて

いますね。平野委員長がおっしゃった通りで、日本から2人目のね、34年ぶりの日本人の国際会長を出さうつて訳だし、途中の経緯はあるにしても出すということは決めた訳だから応援するということでは、誰1人文句はない。

正木 なることに関しては異を唱えてはいないし、応援したい。

吉原 応援はしたいと思つてゐるけれども、一方でやっぱりライオンズクラブつていうのは特殊な組織なので、守つていく所は守つていかないとけない。新しい考えとか新しい方向に関して、そこら辺の整合性とか、微調整とか、なんとかしてうまくいくように知恵を使わなきゃ行けないのはガバナーではないのかなと思ひますね。

正木 それを支えるのは両副地区ガバナー。

平野 やはり組織としての数のプレゼンスが落ちるつていうことは大変なことですが、このプランの話を色々聞いてなるほどあつて思つたのは、メンバーとしての歴史を、子

や孫に引継いで貰おうっていうその考えかたですね。つまりライオン二世や三世を家族会員にするという考え方です。吉原第二副地区ガバナーも二世でしょうけど、これほど歴史のある組織の割には、後継者という面では二世や三世があまりおられない。それらの人たちは貴重な財産な訳ですから、そういった方面で入りやすく、増やしていただくというのはひとつの方策としては成り立ちますね。

波木 しかしやはり中身を、しっかりとっていないことには、本当の意味でのライオンにはなり得ないですよ。

正木 山田国際第二副会長のプランは、地区の崩壊だとか複合地区の空中分解が起こる可能性があるプランだと考えています。例えば単純に10万人入ったとして、次の年15万人辞めたら、もう組織がなくなる。それだけは我々がふせがなきゃならないですよ。

吉原 他地区のある第1副地区ガバナーがおっしゃってましたけど、このL山田のアイディアというのは

物凄くイージーなんです。イージーっていうのは、悪いという意味ではなくて、簡単に対応出来る。非常に着手しやすい方法なんです。着手しやすいというのは壊れやすいってことのイコールなので、だからそこを気をつけていかないと、「いやあいい方法だね」っていうんだけれども、でも地区との整合性というか、地区の会員に理解できるように伝えていかないと危ないですね。

波木 特にはじめに奉仕が楽しいんだ。だからライオンズライフを軌道に乗せて、クラブのメンバーを誘おうって思っているようなメンバーにこれはどう写るのか。「誰でもいいから入れてくれやあ」みたいな言い方はね。ただ立ち位置を変えた説明はしなくちゃいけない。それにライオンズライフを楽しむっていうメンバーは今まで通り人を増やして欲しい。

日本ライオンズの 地位向上を図る

正木 山田第二国際会長は、日本を世界にちゃんとアピールする。そして5年に1回、10年に1回日本から

国際会長がでる。そのためには日本ライオンズが世界の中で重きをなす存在としたい。彼の根底にあるのはそういう考えですよ。そのためには10万人ではだめなんです。このまま放置したら10万切るのは簡単ですよ。ではどんな衰退していつてしまふ。ならば国際会長が出る以上は、やはりその所の数の強さを世界にアピールしていかなければ。

吉原 こないだ公認ガイディングライオンの講習会やったときに説明する資料を集めて思ったんですけど、今333LC地区のほとんどは、従来型ライオンズクラブに分類される。実は国際協会ではその他にも7つも8つも、新しい形態のライオンズクラブが生まれていて、おそらくL山田は、世界に出て行かれて世界の情勢をその目で見られて、世界の目には、日本のライオンズっていうのが変わりそこねている、古いライオンズに見えるんだらうと。一方でもっと物凄く緩い規制の中で、もっと伸び伸び活躍しているライオンズが世界に増えていることが事実で、私達は素直に耳をかすことが必要じゃないかなって思います。

平野 まず世界の潮流があつて、日本に関する危機感や問題意識は間違いない訳です。後はその中で、いかに多様化を認めて色んなクラブメンバーの加入を許容していくのかということですかね。L山田副会長も、今の古い物は消えてなくなれっていう風には思っていないと思いますが、維新ということを言われたようですね。

波木 それはやはり日本の良さがあるわけですよ。日本には日本のね。

吉原 そこは温故知新。日本従来の、従来型ライオンズクラブの良さと新しいライオンズをいかに融合させられるかが鍵ですね。

正木 ガバナーチームは何度も何度も話し合っています。迷う面も率直に言えばあるけど、これをはじめてから見える物があると思う。例えばファミリー会員って言う言い方をしているんだが、息子や娘を集めて支部を作るっていう可能性はある訳じゃないですか。

波木 それをやらない事には始まらないですね。

呼び水としての ファミリー会員

正木 だから評論家的に批判するだけの立場は取りたくないんです。だからとりあえずやってみようかと。例えば、若い娘さんや息子さんたちが集まって、10人の支部ができるかもしれない。支部会費を払ってでも、「1ヶ月の例会やろうやー」ってなるかもしれない。という人達があつまってくれば、これは大成功なんですよ。これで20万人になって5万人辞めたとしても、5万人残る。確かに悩んだんですよ。だけど一概には否定はできないとも思うのですよ。危機感と同じですから。

平野 そうですね。根底にライオンズという組織を残さないといけないという使命感に立てば、奇策でもやってみないと。今まで正攻法で訴えて増えてこなかったのも事実ですから。インパクトのあるものからやってみないと、ジリ貧だよと。

吉原 凄く大切なポイントは、ファミリー会員が増えた時点できちっとした研修とか、その子達をどのよう

に育てるかという事をクラブに対して地区から正しく情報を提供していかないと、やはり、元の黙阿弥になる可能性がありますね。

波木 もしファミリー会員が入る。そのファミリー会員にこういう事をさせてみませんか。支部作ってみませんか、ということのを常に投げかける。

平野 ファミリーメンバーというのは呼び水であるということですね。

正木 その通りだね。

平野 家族会員、ファミリー会員を増やすというのはこの十年来の目論見の一番大きい眼目ですし、ターゲットはまず奥さんになると思うんですか、波木ガバナーに関してはネスからの

波木 転籍ですね

平野 どうですか、来期はおそらく更に女性会員増強に力を入れられたと思うのですが。

波木 もちろんです。女性の力はや

多面的ライオンズ像の創造

るとなったら結束力がすごいですが。この際家族会員でも何でも女性会員がたくさん増えることを期待しています。でも、家族会員増強となると私のクラブは女性だけのライオンズクラブなので、伴侶は男性。しかしクラブの入会規定はすでに「常識ある成人」となっていますから、L山田国際第二副会長のご希望にも対応出来ますよ。アクティビティの幅が広がりますからね。力仕事中心のアクティビティを考えることも出来ますね(笑)

正木 いろんなアイデア出て来ると思う。今だって合コン例会やっているんだから

吉原 あとはね、結局二世会員って、1人だけ二世会員だとつまらないんですよ。二世同士が5人集まったら、これは楽しくなる。やっぱりねこのファミリー会員については、育て方によっては面白いですね。

平野 もっと奉仕が身近になるかもしれないですね。恐らくお父さんが何をしているのか家族はあまり関心がない。奥さんによつては、「みんなが集まって飲んでだけでしょ」と

思われているかもしれない。

正木 家族例会があるでしょ。新年家族例会とか。その延長にファミリー会員を置くと面白いかもしれない。

波木 家族例会で奥さん達に「奥さん支部作ってみない」とか「息子支部作ってみない」と勧誘するのね。
正木 漠然と支部エクステンションするより近道かもしれないね。

吉原 例えば今、孫の教育費を祖父・祖母が出せる税法になりましたよね。だから子供じゃなくても、大ベテランのメンバーの場合には、お孫さんに入っていたく。その会費はおじいちゃんおばあちゃんに出していただくというそういう、時代でもあるのかもしれないですね。

平野 小中学生から、色々な事業に引っぱり出しておいて、二十になったら会員にして巻き込んでいくっていうのはいいかもしれませんね。

波木 リジヨンに今はレオクラブがないけど、私も孫はレオに入れたいと思っているのよ。

平野 ライオンズって総合的な枠組みがある訳ですが、お孫さんをYCEで体験させて、あわよくばレオに入れて、30過ぎたらライオンズクラブへどうぞっていう。

正木 各クラブに二世支部を作るのが難しければ、リジョンで1つそういった、支部を、一番古参のクラブが代表して作ってもおかしくはないですよ。

吉原 青森のライオンズクラブで、二世会員を入れようっていうのを会長さんが思い立って、20何人入ったって。

波木 それは凄いですね。

吉原 それこそメンバー倍増ですよ。みんなお子さんなり、お孫さんなり入れたんで、20代30代の若い世代ばかり。20何人集まったら2世会員委員会作ったんですって。

平野 よその地区にそういった動きがあるようであれば、地区としてもこのファミリー会員と流れが合わせて動きが出て来ると、結構将来明るい気も致します。

正木 期待したいですね。

アクティビティに 誇りを

平野 そういった面々も含めて、女性も若手も増やして行きたいということなんですが、関わって貰うアクティビティも重要だと思います。どうでしょうか？公式訪問されて伝統あるアクティビティもあれば、これは新しくいいなあって感じられることもあったのではないですか。

正木 献血は負けなとかね。うちの例会は常に全員出席だとかね。そういう風なのは胸をはっていたよね。メンバーは30人切った事はないとか、誇りに持てることをクラブの中に持っているかどうか。誇りを持つと強いですよ。弱体化しているクラブというのは誇れるものを持っていないんですよ。あるいは誇れるものがあるのに気づかない。例会の件でも、メイクアップでよその例会に参加するとか、そういう事を繰り返しているうちに可能になるんですよ。それをしないとゾーン自体が弱体化しているような、感じをこの公

式訪問で感じました。

平野 141クラブありますからね。バラエティに富んでいいはずですね。

正木 今年はね、新しいクラブを作ってくれて言っていないんですよ。でこの地区で141クラブあると言う事は。

吉原 多すぎるんですよ。

波木 はっきり言って多すぎる。

正木 クラブを作らないと人数が増えないっていう考え方は捨てなくてはね。

波木 だから支部とかファミリー会員とかでいいんじゃない。

吉原 一つの親クラブがあつて、ファミリーとしてその親クラブにぶら下がっていてもいいけど、元のクラブは一つのグループであるという見方にしないと。

正木 141クラブ3,500つて少ないんですよ。

波木 一番多くて4,000人近くいたわけですから。

吉原 市川でね、統一自治体で市川市内に8個もクラブがある。松戸市が7個。

正木 君津市4つ

波木 千葉市は12あるわね。

吉原 4つだつて多いんですよ。逆にいうと旭とか佐原とかがなんで元気なのかというと、1つしかないから。やはり1つだと求心力が生まれるんだけど、2つ3つ4つ増えてくると、フォーカスが生まれるんですよ。そのクラブの価値が12分の1とか、8分の1とかになつてしまつて、なんか行政から見てもライオンズっていっぱいあるというふうになつてしまう。

平野 やはり量から質じゃないですけど、日本の社会構造自体どんどん数としては減っていく社会ですから、そろそろC地区にしても、クラブ数を増やせば会員が増やせるというよりも、多様性のある質の良いアクティビティを持って、アイデン

ティティを持っていれば、6月にドーンと辞めるようなことはなくなるのではないでしょうか。

吉原 ここ何年ライオンズはずっとそうだと思うけど、産めや増やせで作るけど、育てない産み捨て。ガイディングライオンはいるけれども、ただいるだけっていうふうになつて、クラブは自主的にやらなければならぬんだと突き放すから、結局自己流になつていって、自己流だとわからないから、不安で不安の中だと失敗して。

波木 失敗したら責任感じて、つまらないかと思って辞めてしまうんでしょうね。人材育成、新しいクラブや若いクラブ、それと上手くいったクラブに対してのサポートというか、指導というか、それこそ地区の使命かもしれない。

平野 来期の展望はどうですか？かなり早いですが。

来期の展望について

正木 私の前後が女性がバナーですからね。日本全体を見回しても類を

みないんですね。しかも私の時は女性ガバナー0でしょ。来年は日本で1人でしょ。その次のガバナーはやっぱり女性がいらないですよ。333-Cはね、女性について特に重大な意味を持って取り組むべきだと思います。日本ライオンズクラブはこの地区に女性のモデルの地区を作りたいんですよ。女性ライオンはこうであつて欲しいという。

波木 実はクラブの姿勢次第ですね。本当に女性の会員を入れたいと思えば女性の人材はいっぱいいるし、立派に会費を払える予備軍はいるんですけど、「いや、女性はつて」言っているライオンが多くて。

吉原 今度ファミリー会員の問題を、女性会員増強の足がかりにして貰つて。

波木 凄く優しい入り口だと思う。

正木 優しい入り口だよ。そういうことで、女性の会員も男性の会員もいいじゃないかという、男性の支部だけ5人集まったらやつてもらつていいんじゃないかと。このクラブは若手ばかりだから夜9時から

多面的ライオンズ像の創造

例会始めてねつていうのもありだと思ふ。

平野 入り方は極力柔らかく、もちろんライオンズクラブですからステータスを考えるっていう方多いでしょうから、柔らかくいきすぎるとステータスが下がっていくでしょうから、その辺は緩やかに。

吉原 柔らかい人達ばかりになっちゃうとクラブが運営できないけどね。

正木 それにね、楽しんでるのはいいのだけれども、少人数クラブで満足してしまっているのも問題。満足しちゃいかんですよ。もっとアクティビティしないんですか？なんて言つてたよね。その人数でも出来ますか？とか。

波木 そう、やっぱりね、アクティビティの考え方がよく分かつてない人が多すぎるのね。どうもこう、慈善団体と奉仕団体の違いがイマイチわかつていないかなつて思う。そこで来期は各クラブのやつていたことを賞賛する。ただね、何々賞つていつて年次大会で賞を与えるのではなく

て、みんなの前で主張させてそれでアイディアを、配つて行くというかそこにいるだけでよそのクラブのアイディアがなんとなくイメージとして伝わるでしょ。ライオンズに夢を！

正木 それで例えばね、夢を達成したクラブは年次大会で発表だよ。発表させたい。ガバナー大賞をあげたいんです。そしてなんでこのクラブがガバナー大賞つていうのもちゃんと話したい。

吉原 よその地区の話すると変だけど、東京なんかはエクステンションしたクラブが大賞は貰えないんです。エクステンション優秀賞しかも貰えない。会員を増強したクラブも会員増強優秀賞しかも貰えない。金賞銀賞があるからね。その中の一つのカテゴリでしかない。ちゃんとやっぱりいい事業をやったとか、いいアイディアを出したとかいう所がガバナー大賞をもらっている」

正木 そのために最後に3月8日、ドリームアチーバーを決める、『夢を実現しよう会』つていうのを企画しているんですよ。

波木 それを私は引き続いて、アクティビティのプランを発表して年次大会で発表しようと思っているの。

吉原 金賞、銀賞とガバナー大賞は別なんです。ガバナー大賞をアクティビティに、金賞銀賞は会員を多く入れたとかね。

正木 私、波木ライオン、吉原ライオンで三代続けば、ガバナー大賞の意味が出てくる。

吉原 アワードってうちの親父の時から変わらないんだよ。30年経ってますけどね。

正木 あのアワード帯だってね。

波木 昔は付けたけど最近はずけなもんね。

吉原 昔のクラブは結構クラブ旗にワッペン付いて、帯なんかにも付きますけどね。最近はずけなくなりましたよ。

平野 昔の人に言わせると、つけるて恥づかしいからつけなくていいって。

正木 それがおかしい。その指導がね。それが誇りじゃなくちゃいかなのだけれども。

平野 誇りじゃなくなっただけですね。

波木 自分達の貰って誇りになる上で、取れなかったクラブも次期は、

平野 アクティビティは各クラブで精査してもっといい意味での方向性を波木キャビネットでは出されるのですか？

波木 そうしたいですね。夢を語って実現してもらいたい。

正木 夢やビジョンを持ったクラブ運営であり、アクティビティをやっていたら。夢やビジョンの成功したクラブには、ガバナー大賞の中の献血優秀クラブとか、それとYCEの派遣をやったとかって。やっぱりアクティビティを表彰したいんです。そうすればアクティビティから活性化するクラブが次年度に増えるかもしれない。楽しいのってクラブも増えるかもしれない。それが私の夢ですね。

吉原 クラブの活性化、やりがい育てるとか、プライドを育てるとかにフォーカスしていくってことだね。

波木 単純に考えたら、楽しくないクラブに誰が入るの？だから正木ガバナーの言葉が伝わるのよ、逆に。

吉原 やたらにね。

正木 これは政策として続けて欲しいね。アクティビティをやるっていう、楽しいクラブをつくらうよってね。

波木 しかも堅実にね。

平野 まとめになるんですけど、実際にクラブを運営されていても、次世代の継承においては色々問題もあるんで、いろいろな奉仕活動をしていけるような、使命感を引継いでいただけよう、量ではなく、質の面をこれからは強化して、それこそ3代ガバナーチームで、共有されて筋道を作っていければいいかなという所でございましょうか。

正木 みんなに考える力を持っていきたい。メンバーがね。

吉原 今日面白かったのは、誌面にのるから批判ばかりしてはいけないと思うと、建設的なことがでてくるんだよね。

正木 山田国際第二副会長のプラン。繰り返しになりますが、その危険性は重々認識しています。今日ファミリー会員について途中から思いがけず前向きな意見がガバナーチームで出たのは、悩んで考えて考えて、考えてた最中には思いつかないことなんだよね。それは要するにマイナス思考に考えてるから。所がマイナス思考な事を言っただけじゃないかと、プラス思考もあるんじゃないかと。

平野 それがタイトルにもある「多面的ライオンズ像の想像」ですね。

波木 そうだよ。だからこの鼎談、凄く良かったですね。

吉原 しつかり問題な点も踏まえてただけど、前向きにやると、そういうことですね。

平野 本日は有り難うございました。

家族会員による 日本ライオンズ会員倍增計画並びに 333-C地区の対応について

そもそもの計画発端の

問題意識は

既に周知の通り、過日のハンブルク国際大会において山田實紘国際第二副会長が誕生し、ホノルルで開催予定の第98回国際大会において、34年ぶりの国際会長が誕生する運びとなる。この動きに合わせて山田国際第二副会長は、日本8複合地区の全ての準地区ガバナー並びに第一第二副地区ガバナーを招集しての「日本ライオンズのアイデンティティを語る会」を開催。その席上で自身の所信として以下の点を表明した。（下記は各地で山田が発表したものを総合的に列記してある。）

- ・日本ライオンズの会員減少に歯止めがかからない。
- ・日本ライオンズは世界的なライオンズクラブの潮流から取り残されている。
- ・インドや中国が会員数を順調に増やしており、国際協会における日本の影響力が低下している。
- ・日本ライオンズの会員数をホノルル国際大会までに倍増させ、国際協会における日本の影響力を維持したい。
- ・会員数倍増のために家族会員プログラムを活用し、その運用については家族の範囲の定義、会費の取り扱い、例会出席義務やアクティビティ参加についても大幅に緩和し運用する。
- ・この目的遂行のため、年に4回「全国ガバ

ナー連絡会」を設置する

といったものである。

世界第二のライオンズ国であった日本が、インドの台頭により第三位になって久しい。また、これだけの会員数並びにLCIFへの献金をはたしているのに、日本からの国際会長候補は山田で3人目であり、我が国の国際協会内での発言力は更に弱まっている。これを何とかするためには会員数を倍増するしかない、というのが山田国際第二副会長のお考えであり、問題意識である。国際社会での発言力低下などは、ライオンズだけでなく日本社会そもその問題として考えられていることでもあり、国際情勢をつぶさに観察され、体験された山田らしい問題意識といえるのではないか。

問題点は家族会員の 取り扱いである

34年ぶりの日本人国際会長。その誕生に向けて協力を惜しまないのはどのメンバーも同じ気持ちである。しかし問題点は問題点として認識しなくてはならない。では、家族会員増進計画の問題点は何か。それは家族会員プログラムの取り扱いである。このことについて山田国際第二副会長の提案は次の通りである。

① 従来同居かつ生計を同じくしている家族としていた家族会員の入会資格を、同居していない、生計が別でも親族であれば家族会員とすることが出来る。

② この提案で入会した家族会員の会費については、国際入会金(25\$)ならびに国際会費21.5\$のみ支払えばよく、他のクラブ会費、地区会費、複合地区会費は免除すべきである。また、これらの国際会費は本人が負担するのではなく、親会員が負担する。

③ 家族会員については例会出席義務やアクティビティの参加については大幅に緩和すべきである。

まず①について。従来家族会員として入会できるのは、正会員と同居かつ生計を同じくしている親族とされていた。ここから同居の有無と生計同一の有無の条件を撤廃することを山田国際第二副会長は全日本へ提案され、これに関してはバリー・パーマー国際会長も3年という期間と日本地区を限定して要件の緩和を通過されている。家族証明書類を提出しなくても登録できてしまうし、4年目以降の取り扱いについては不明なので、野放図な運用には注意が必要と推察される場所ではあるが。

次に②についてである。家族会員で今より10万人日本の会員を増やしたいと山田は考えている。そしてその最大の障害は日本のライオンズクラブの会費の高さと考えておられるようだ。そのため、この提案に賛同して入会される家族会員については国際協会に対する入会金と会費のみを支払い、クラブ会費や地区会費、複合地区会費についてはこれを免除し、負担を軽くして多くの方にライオンズメンバーになってもらいたいというものである。これについては意見の分かれるところである。これによるとメンバーは増えてもクラブや準地区、複合地区の会費収入は一切増えないことになる。ただしメンバーは増えるので、各クラブや準地区、複合地区ではその家族会員が増えることによりインシャルコストや諸経費を賄えきれぬのか。却ってクラブや準地区を疲弊させることになる可能性は否定し得ないのではないかと、やはり推察される場所である。

そして最後に③である。家族会員プログラムは正会員の中の一プログラムである。従って家族会員は会員種別としては正会員である。であるならば当然例会出席義務はあるし、クラブのアクティビティにもライオンズメンバーとして参加しなければならない。現に我が333-C地区では家族会員の地区役員もクラブ会長も存在している。例会出席義務はクラブを維持するためのタガのようなものであるし、アクティビティに参加することは奉仕団体にとってアイデンティティであるはずだ。奉仕に参加せず、その上で例会にも出席しないメンバーが増えた時、長い目で見て会員の増強となるのだろうか。そしてライオンズ自体の存在感を社会に誇示しえるだろうか。現在の10万人の日本ライオンズのメンバーが一人ずつ家族会員を増やせば会員数は倍になる。しかし例会に出席せず奉仕にも参加しないメンバーというのは、早晚退会してしまう可能性を否定できない。だけでなく従来からひたむきにライオンズで奉仕に汗してきたメンバーさえ退会してしまう可能性もはらんでいるとやはり推察せざるを得ないのである。

333-C地区の 対応は？

いままで列記した問題点については、山田正木守333-C地区ガバナーもよく理解されており、その上で山田實紘国際第二副会長誕生を

援護するために左記のように制度運用をすることを決定されました。

◎333-C地区では、従来の家族会員とは別に、本提案のあった言わば「緩和された家族会員」を「ファミリー会員」と称し、既に入会されている家族会員とは分けて取り扱う。また、ファミリー会員は正会員と同等の義務・権利を有さない会員とする。

その上でファミリー会員の運用については以下のように第二回キャビネット会議で発表されております。

- ① 国際協会へ新入会員として登録し、国際会費のみを支払う。
(初年度 国際入会金25ドル+国際会費21.5ドル/半年11.75ドル)
※この「ファミリー会員」は、親会員(世帯主)の会費から国際会費のみをご負担いただく。
- ② 「ファミリー会員」は、地区会費、複合地区会費、クラブ費に係る一切の費用を負担しない。
- ③ クラブ例会に出席せずクラブの奉仕活動には参加しない。
- ④ 親会員は4人までの会員増強ができ、その期限は、翌年6月末日まで。
- ⑤ 国際協会には家族会員として登録されるが、地区内の統計上、会員種別区分で

は、これまでの正会員(家族会員・支部会員を含む)・優待会員・終身会員等の通常会員とは別に、「ファミリー会員」数としてカウントし、地区内クラブ会員数一覧統計では、通常会員数から分離し、サバンナで別途「ファミリー会員」数を記載していただくこととする。

というものである。今回の提案の問題点は問題点として、しかしながら会員減少に歯止めがかからないのは事実であり、更にいえば会員の高齢化等解決しなければならぬ問題は確かに存在する。そう考えた時にこのファミリー会員は屏息を打破できる可能性を秘めた提案であるとも理解できるのである。即ち、

- ① 会員の高齢化に伴う後継者の育成
家族会員の候補対象として、これまでのような会員の配偶者に、自分の正会員を引き継いでくれると思われる「子」「孫」「子の配偶者」、「兄弟姉妹」、「甥・姪」などを数名加えて、招請していただき、ライオンズクラブの組織や知識に触れ、予備的理解と関心を持っていただく。
- ② クラブ運営・奉仕活動充実のための会員増強

「ファミリー会員」を年間1〜2回程度家族例会にお誘いし、ライオンズクラブ例会を理解していただき、クラブ会員と懇親を深めること

で、ライオンズクラブに馴染んでいただく。また「子」「孫」等の「ファミリー会員」に「君」のできる範囲でいいから」と、奉仕活動に参加を呼びかけ、「We Serve」の考え方を体得していただく。「ファミリー会員」の10人の中から2〜3名の「家族会員」や「正会員」が生まれる可能性が出てくる。

といった可能性をである。であるから各クラブには趣旨をよくご理解いただいて、クラブの情勢やメンバーの考え方に合わせて柔軟に運用していただき、クラブの後継者育成へと繋がることを期待したい。

山田實純国際第二副会長



YCE派遣生座談会

山村加奈子さん
古川 空さん
飯塚 捷人さん
柴崎 優子さん
根本 侑季さん

MD 4へ・・・・・・・・・・松戸中央ライオンズクラブより
マレーシアへ・・・・・・・・・・四街道中央ライオンズクラブより
イタリアへ・・・・・・・・・・成田ライオンズクラブより
オーストラリアへ・・・・・・・・・・佐倉ライオンズクラブより
シンガポール・マレーシアへ・・銚子中央ライオンズクラブより

【聞き手 地区情報委員長 L平野寛明】

平野 まずYCEに派遣生として行くきっかけはなんだったのか聞かせください。

飯塚 父がクラブの会員で、「こういう話があるよ」っていうのもありまして、友人がやはりYCEで派遣されたという話も聞いて。

古川 うちの親が四街道のライオンズクラブの方と知り合いで、それで応募しました。

根本 レオクラブに入っていたのと、兄がYCEで2回行ってたということもあっていくことになりました。

柴崎 前から留学に行きたいなっていうのを祖父に言ってる、祖父がライオンズクラブのメンバーなんですけど、それならばと。

山村 私も祖父がライオンズクラブの会員で、私のお母さんの代から行ってたんですよ。お母さんもライオンズクラブでアメリカに行っていたりして。

平野 お母さんがYEで行ってた？じゃあYE2世だね。皆さんライオンズになんかしらの関係があったと思う

んですが、海外は初めてだった？

古川 僕は高校の時に学校のプログラムでイギリスに行きました。

平野 情報を見ると、柴崎さんのオーストラリアや山村さんのアメリカ、根本さんのシンガポールは英語は公用語でしょうけど、飯塚さんの場合はイタリアで、古川さんの場合はマレーシアで英語圏ではありませんでしたよね。不安はありませんでしたか？

飯塚 不安はあったんですけど、その前の年にバックパックでヨーロッパを回った時に多少日常会話を覚えていたっていうのもあって、何とか乗り越えた。

古川 今回ホストのファミリーの人が中国系の人で、質問以外の時は何も話しかけてこない。

平野 それは大変だったね。シンガポールはそこそこ英語が通じますよね？

根本 私に話するときだけ英語で、あとはどの家も全部マレー語か中国語でした。

平野 頭が混乱しそうですね。オーストラリアは英語だからね？

柴崎 最初の3日間くらいは何言ってるかわかりませんでした。

平野 耳が慣れてくるまではね。カリフォルニアっていうのも英語でなまりがある英語なんだけど。

山村 自分も全然わからないし、「ハロー」位であとは何もわからない状態でいったんですけど、段々耳が慣れていって、いつの間にか仲良くなってる時なんか真夜中、悲しくて泣いて。

平野 なるほどね。ホームステイで皆さん1家庭か2家庭でしたか？

根本 5家庭でした。

全員 凄いです。

平野 ハードだね。後は皆さん1家庭か2家庭ですね。ということは2週間ずつ？

柴崎 私は2週間1週間、ラストの何日間はライオンズクラブでシドニーに集まって観光でした。

山村 私もキャンプがありました。5週間いったんですけど、間の1週間はみんなでキャンプでした。

平野 語学では最初は打ちのめされて、段々と慣れてきたという感じかな？

全員 そうですね。

平野 他にいくことに不安とかあった？

根本 食べ物ですね。

平野 シンガポールは大変だった？

根本 とにかく食べるんですよ。一日5食食べていたんで。朝からずっと。

山村 自分もアメリカ行った時、1ヶ月で3キロ太ったんですよ。ハンバーガーが一日のどこかに必ず組込まれていて。

柴崎 オーストラリアも、必ず一日1回必ずフィッシュアンドチップスを食べ、夕食は必ず肉だったんですよ。「今日はカンガルーだよ」みたいな。今日動物園いったんだけどみたいな。

平野 これは食べれないというやつは

特になかった？

根本 虫とか、芋虫とかカエルとか。

平野 ボルネオか。凄い経験だね。

平野 イタリアは食事良かったでしょ？

飯塚 食事よかったんですけど、朝はほとんど何にも食べなくて、お菓子とかビスケットとか。それすら何もない時もあって、コーヒー一杯だけとか。

平野 みなさんどうですか？ 基本的な受け入れ家庭の人が世話してくれるのか、そのクラブの人がきてくれるのか、どうですか？

飯塚 イタリアは2週間いったんですけど、最初の1週間はクラブ。宿泊まりだけ家庭。それ以外はみんなで行動する形。あとの1週間はそれぞれのイタリアの各方面に散ってという感じでした。

平野 マレーシアはどうでしたか？

古川 マレーシアはホストの方が付き添ってくれたんですけど、去年いった

ニュージーランドはライオンズクラブの方と回りました。

根本 ホストファミリーの方はずっと仕事を休んでくれて、クラブの人も来るし、学校の人もくるんですよ。

平野 オーストラリアはどうですか？

柴崎 基本的にホストファミリーと一緒に過ごして、1日だけあちらのクラブの方と回る日がありました。

山村 アメリカは結構日本人派遣生がいるんですよ。だから派遣生だけで行動する日もありました。あとライオンズのミーティングもありました。

柴崎 私もありました。

平野 例会訪問？

山村 そんな硬いものではなくて。

平野 皆さんは日本のホストクラブの例会は出られた事ある？

全員 あります。

平野 やっぱ日本のクラブと派遣先

のクラブというのは雰囲気は？

山村 違いますね。もっとフランクです。きちんと話は聞いてますけど、堅い感じはしなかったです。

平野 夏の館山でキャンプで来日生の皆さんがそれぞれ国の説明をされてたんだけど、皆さんは逆にこうゆう経験をしたとか、上手く説明できなかったとか。

山村 自分は全然話せなかったです。今年サマーキャンプに参加したんですけど、みんなの前に立って自分の国を話している事が凄いなあって。



→ 山村加奈子さん

飯塚 3、4回例会があつて、そこで

平野 お互いライオンズだつていうの認識はあるから。多少語学がわからなくても共通している価値観はあるからね。イタリアはどうですか？

根本 向こうも英語イマイチなんで、伝わなくても「オッケー」みたいな。

柴崎 私はありました。今日例会があつて、ホストファミリーが「貴方の住んでる国について聞きたいだから用意して」といわれて自己紹介したんですけど、大変でした。



← 古川空さん

イタリア語でスピーチしました。最初に自己紹介程度で覚えて行つて、それを披露したんですけど。ホストファミリーの方が偉い方でクラブの。「あんたできるね」って感じで僕がやることになつてしまつて。ホストファミリーの方が「最初英語で書いていて私がイタリア語に訳すから」という感じで。

平野 帰つて来て、これから派遣される後輩にこれは用意した方がいいとか、心構えとかアドバイスはありますか？

飯塚 イタリア語を自己紹介程度でも覚えていくといいですね。

古川 去年ニュージーランドに行った時に、スートケースを2つもつていったんでお金が余計にかかった。

平野 期間が長いからね。他の皆さん荷物は1つでもなんとかなつた？

柴崎 向こうでお土産買ったのでそれが入らなくて。向こうでスートケースをもう一つ買って、2つで帰つて来ました。

山村 洋服3、4日分しか持つて行か

なかつたんです。予めホストファミリーにメールで「そちらで洋服買えますか？」聞きました。「全然大丈夫」つて言われたんで、持つていかなかったんです。

平野 前もつて向こうのホストファミリーにEメールでやりとりしてたんだ。どれくらいの頻度で？

山村 返信が来るのが遅いので、3、4日に一回位です。

根本 私はタオルを3枚くらいしか持つていかなくて、タオルが少なくて参つたのと、ティッシュがなくて、大変困りましたね。あと洋服いっぱい買っちゃつて、荷物が多くなつて大変でした。ホストファミリーが全部買ってくれるんですよ。最初の3週間1円も使つてなくて。

平野 洗濯は基本的に全部自分で？

根本 家庭でお手伝いさんがやつてくれるんですよ。

平野 男性陣はどうですか？洗濯は。

古川 やつてくれましたね。

平野 女性陣も基本的にお手伝いさんが？

山村 一軒目は一番最初に聞いたんですよ「どうすればいい？」つて。そうしたら「自分で覚えて自分の好きな時にやつて」と言われて自分でやつてました。でも2家庭目はお母さんが洗つてたんでくれてました。他のYCE生に聞いても、家庭によつてまちまちみたいです。

平野 2週間なり3週間なりだと思ふんだけれども、おこづかいはどうですか？持つて行つたの？

山村 現金とトラベラーチェックを合わせて10万位持つていったんですけど、1万円も使わなかつたです。全部払つてもらいました。

平野 それはすごいねえ、本当にお土産だけだ。どうでした？ イタリアは。

飯塚 いくら持つて行つたのかは忘れちゃつたんですけど、ほとんど使つてないですね。

平野 マレーシアは？

古川 マレーシアもそうゆう感じでは

とんど使わなくて、お土産の時とか自分の欲しいものを買ってたんですけど、向こうのホストファミリーの方が余計に買ってくれて、「持って行きな」って。

平野 皆さん若いから、ネットだとか携帯だとか必要だと思うんですけど、向こうでこういう事が不便だったりとかありましたか？

柴崎 携帯は日本から何も設定せず持っていくとお金凄いかかったから、ずっと機内モードにして写真だけ撮るようにして、パソコンも持って行って、Wi-Fiのパスワードを聞いて、自分の日本の家庭と連絡取ってました。

平野 やはりノートPCは必須だった？

柴崎 はい。

飯塚 持っていましたね。

山村 スマートフォンでなんとかならしました。

平野 向こうで使えるように設定し

た？

山村 モバイル通信を切って、Wi-Fiが大体の家で飛んでたので家でだけ使えて。あとマックとかでも使えるんで。

平野 フリースポットだね。いい経験したね。ちよつと頭を使わないと繋げられないものね。

最後になるんだけど、自分が行く前に行った後で、ココが変わったなあとかこうなりたいなあとか、漠然とでいいからあるかな？ また行ってみたいなとか。

山村 私は凄く変わりました。なんかもう人生変わりました。

平野 どうゆう風が変わった？

山村 その時の自分が本当に何もなくて。英語も何も出来ない状態でいったんですけど。行ったら本当悔しい思いをして、英語やりたいって思ってた。海外の友達が出来たんですよ、話せないながらに。

平野 今回行って友達ができたのね？

山村 そうです。だからもっとコミュニ

ニケーション取れたらいいなって思ってた、日本の大学じゃなくて海外の大学にすることにしました。

平野 進路が決まったんだね。これから受験だね。本当に人生の転換期になるかもしれないね。

柴崎 もっと英語ががんばろうなって思いました。自分では言えてるつもりでも、ビッグとラージのニュアンスの違いとかの細かいところがわからなくて。違うつて言われても、直し方がわからなくて。そういうところは日本で学んでいきたいなって思いました。将来英語を使った仕事ができればいいなと思いました。

根本 英語ももっと話せたらなっと思ってたんですけど、向こうの生活が辛過ぎて、日本に居る事がどれだけ幸せなのか本当に日々感じるんですよ。

平野 他の国に行ったから日本って凄いとかが、例えば安全だなとか。

根本 安全ですね。

平野 離れてみて日本の良さとか、両親の有難さとかを感じたかな？

柴崎 日本で時間がちゃんとしてるし、礼儀が正しいじゃないですか。それは凄い。向こうに比べて気づきましたね。語学も、自分の学校は英語に特化してない学校だし、自分も英語ってものに興味がなかったから、全然なんにも0ですね。

平野 皆さん辞書を片手に。電子辞書持ってた？

飯塚 持って行っていないです。

平野 凄いいね。イタリア人独自の大らかさみたいなものがあるからかな？



→ 柴崎優子さん

← 飯塚 捷人さん



飯塚 別に英語が通じなくても、「ヘーイ」みたいな感じで。

平野 行く前からアプリケーションフォームで申告していくから、受け入れてくれるというか。こんな世話せないのかみたいなことは言われないのかな。

山村 小2から英会話やっていて、会話で苦勞はしなかったんですけど、言い回しとかリアクションの取り方とかわからなくて。教科書に載っているようなリアクションをこっちは取っているけど、相手はまったく違うリアクションを取っていて、これはどういう

意味のリアクションなんだろうとかわかんなかったり。

平野 そういう意味では生きた英語の授業を日常生活でしたわけだね。体調壊した事なかった？

根本 壊しました。(笑) 一回熱出したんですけど、その家ごとに終わる度にパーティがあるんですよ。浴衣持っていて、「それを着てもらわなきゃ困る」って言われたんですけど、道端で熱があつて、お腹も壊して一回倒れたんです。さすがにホストファミリーが焦って「医者に行く」って凄い騒ぎ始めたんですけど、もう動きたくもなくて、「もう大丈夫だからって、そっとしてって」、雨も降ってて、トイレにも行きたかったんですけど、トイレもなくて。屋台のトイレを6箇所くらい回りながら、タクシীরの所に行ったんですよ。それで家に帰ったら、ちよつと良くなったんで、薬飲んでとりあえずパーティー出ました。

平野 根性だねそれ。病院行かないで？

根本 行かなかったんですけど、多分私からなんですけど、他にも日本人がいて、みんな風邪になったんですよ。

みんな私が移したのかな？ 1人は本当にお腹壊しちゃって、空港の救護室みたいな所につといて、飛行機に乗れなそうになって。お腹は壊しますね。

平野 根本さんも話聞くと積極的に進めていいのかわからなくなってきたかな。じゃあ後悔した？

根本 最初は行きたくなくて。小さい時からレオクラブに参加して、高校生になったら行きなさいってみんなに言われて。お兄ちゃんフィンランドに行ったんですけど、最初に話を聞いてたら、フィンランド行くにはドイツで乗り換えて、ドイツの空港で4時間遅れて、ドイツ語もわかんなくて泣きそうになりながら、電話掛かってきたんですよ。これを小学生の時に見てて。

平野 トラウマになっちゃったんだ。

根本 行きたくなくて、親に部活をやっているっていう条件でいかななくていいって言われてたんですけど、辞めちゃったんですよ。辞めちゃったらいくしなくて、もう募集締め切つて、たまたまボルネオが追加募集になつていて、いきなさいっていわれて。泣きながら行くよって。行かなかったら

ずっと文句言われると思って。

平野 すさまじいね。

根本 最初なんか行きたくなかったの。最初の1週間なんかは日記読んだら「死にたい死にたい」って書いてあつて。本当に辛くて、親に毎日泣きながら電話して。だけど段々慣れてきて、楽しくなつて。

平野 諦めの境地。

根本 凄く楽しくなつて。最後帰るときに泣いていたんですよ。

平野 凄く変化ですね。それは逆に嬉しい親御さんに感謝だね。もうちよつとやそつとのことで海外ではビックリしないね。これだけの経験を海外でしちゃうとね。

凄く内向きだったのが、海外行つて変わったとかいう体験談をよく聞きますが、皆さんありますか？ あんまり話が出来なかったのが、海外行つて話せるようになったとか、日本とかでも家族と話すのが多くなったとか？

飯塚 イタリアは国民性が凄く明るくて、日本とはちよつと違って自分を全

部出てくるので。多少自分の性格が変わりましたね。

古川 ニュージーランドに昨年行ったんですけど、帰って来てから家族と話す時間が増えたかなと思いますね。

根本 途中から日本に帰りたくなくて、親に電話しなくなったんですよ。

平野 逆に親が心配した？

根本 親が私のフェイスブックを見て、様子を伺う事になって。

平野 それも現代かい。

根本 私はなんか家にいる時間が本当に少ないんですよ。ほとんどいなくて。6時に出て帰って来るのが夜中だったんですよ。気を遣って電話も出来なかったんで、向こうから掛ける事はできなかったんで。だからあんまり連絡とかは取ってないです。

柴崎 九州からのYCE生とたまに派遣先の街とかで会ってますよ。その時にトイレ使えないんだけどとか、そういう話をして心が和むというか、余裕ができるというか。

平野 ふと旅先で日本人に会うとすぐに意気投合しちゃうっていうのもあると思うけど、今まで会ったことない他地区生と多少会ったよね。やっぱり安心した？

山村 今でも繋がってます、みんな。関西の人たちとかいるんですけど、今年の3月にみんなで東京で集まったりします。

平野 同じ地区に派遣されたYCE生同士で？

山村 そうです。アメリカと一緒に行ったYCE生で。

柴崎 この冬休みにみんなでデイズニーに行きます。

平野 他地区の子達とデイズニーに？

根本 私も九州に行きます。冬休みに。戻って来た瞬間に九州旅行計画したんですよ。

山村 向こうで仲良くなる友達って、周りに日本人とかがいらないから、仲間意識というか。

平野 戦友みたいなの？

山村 そんな感じですね。深まったのかなと思います。

平野 みんなすぐにメールアドレス、フェイスブック交換みたいな、ラインやるとか。

柴崎 オーストラリアは日本から全部で24人派遣されて、私のいった地区には2人しかいなくて、その子達と地域が違ったから、街なかで会うというのも全然なくて。

平野 現地とかの人と交遊を持ったとか、会う約束をしたとかはある？

山村 11月にきます。

平野 プライベートで？

山村 街案内してみたいな。私がステイした所の、もう家を出ている二十くらいのお姉さんなんですけど、彼氏ときます。私がステイした時も彼氏と一緒に回ってくれたんですよ。その人もYCEで一度日本に来たことがあって、日本が好きみたいです。

平野 なるほどねえ、どうですか男性陣は？

古川 フェイスブックで友達になってます。英語でやりとりしています。

平野 イタリアはどうですか？

飯塚 僕もフェイスブックでやりとりしています。

平野 皆さんそれぞれ貴重な体験をされたようですね。そして色々な方面に友人も出来たようです。今日は貴重な話を有り難うございました。

←根本侑季さん



1 R-地区ガバナー公式訪問合同例会

1 Zゾーン・チェアパーソン L成島龍也 2 Zゾーン・チェアパーソン L古河守男

9月14日(土) 東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートにおいて地区ガバナーL正木守をお迎えして1R-1Z・2Zのガバナー公式訪問合同例会を開催。

ガバナーを囲んでの三役会議では、各クラブ会長より「クラブの現状、活動方針等」が報告され、その後、ガバナーが質問や要望等を述べながら、総括する形で実施されました。有意義な会議でした。

合同例会では従来の各クラブ毎の

テーブル着席ではなく、各Lがくじ引きで席を決める方式を取り入れさせていただきました。これは後述するエネジャイザーに関連しております。

合同例会ではガバナーL正木守が挨拶のなかで、五つの「ガバナー方針」を示し、一つ一つ具体的に上着を脱ぎ、腕まくりしながら熱く、解り易く説明され、出席のLは頷いて熱心に聴き入っていました。その後、地区名誉顧問L内田千尋からアイバンクの現状報告、献眼登録のお願い

がありました。

懇親会に先立ち第二副地区ガバナーL吉原稔貴によるエネジャイザーが実施されました。

エネジャイザーには種々の手法があり、今回は席を固定せずより多くのLと交わり親交を深めました。(ライオンズのエネジャイザーについては <http://www.lionsclubs.org/JA/pdfs/leadernews.pdf> をダウンロードして3頁を参照。市川LC L長谷川肇情報提供)

エネジャーには色々なツールがあり近年各企業や各種団体等で人材育成や組織の活性化に利用されている。ライオンズクエストにも役立っています。



日時：9月14日(土) 東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート

2 R-地区ガバナー公式訪問合同例会

1 Zゾーン・チェアパーソン L岩橋 明 2 Zゾーン・チェアパーソン L水野武明

9月15日、今夜か明朝には台風来襲の予報、半世紀ほど前映画「嵐を呼ぶ男」で石原裕次郎がエネルギーギッシュにドラムを叩く姿と、正木ガバナーのバイタリティーある姿が一瞬重なりました。

三役打合せ会でのガバナーお話「定めた会費を納めれば皆平等である、年齢や社会的地位も関係ない、だから〇〇ライオンと呼ぶのだ」「楽しい例会は、約束ごとを守るからできるのだ」というような基本的な物の考え方を優しく語り始め、[重点目標5項目]を分かり易く説明され、全クラブ三役は集中して耳を傾けていた。続いてクラブ会長からの話でガバナーから[クラブで誇れること]と注文があったが、普段あまり意識していないのか各クラブ控えめな発言で、他から見ればもっと誇れるものがあるのに。ガバナーの発言は、

クラブの誇りを認識し前面に出せばより良いクラブになることを伝えたかったのでは。アイバンク協会からお話は、具体的で内容のあるものであった、広く伝えて欲しい。

外は、まだ静かロビーではメンバーの談笑があちこち、定刻に公式訪問2R合同例会の開会、笑顔でガバナー入場、まず雰囲気上々。各クラブ会長それぞれ任務を的確に果たして行く中で、ガバナーの火の玉挨拶を期待。数日前の野田市の竜巻被害に対する地区の即急対応から始まり災害対応のこと、国際協会とライオンズクラブ活動の話、そして仲間が大勢いること、ライオンズでの活動をからだで覚え、自分で動くことを話された。この間26分火の玉挨拶でなく丁寧で分かり易い内容で話され、開かれたキャビネットを感じた。その後、今年度新入会員6名に

ガバナーからライオンバッチを贈呈され会員の誇らしげな笑顔、続いてリジョン最高齢会員92歳L青木孝(松戸東LC)に終身会員の伝達を特別に行っていただいた、L青木は元気でアクティビティーにも積極的に参加とのこと。

食事・懇談に入り、ガバナーは席を温める間なく各テーブルを訪れ、会談や写真撮影に引っ張りだこ。TTタイムは、松戸みどりLCに最近入会された歌手L湖本恭子の愛らしいピアノの弾き語り、ざわめきのない落ち着いた雰囲気であった。

今回、副地区ガバナーにガバナーチームとして出席していただいたこ



地区ガバナー公式訪問

とは、心強いことであり次期に繋がることを期待できる出来事と思います。

三役打合せ会に始まり全体として、

内容が濃く締めりのある暖かい雰囲気
の地区ガバナー公式訪問合同例会
であったと自画自賛しております。
嵐は来ず、静かな夜の散会であった。

日時：9月15日（日）
ナプシャルズ南柏

3 R－地区ガバナー公式訪問合同例会

1 Zゾーン・チェアパーソン L 川村和伸 2 Zゾーン・チェアパーソン L 松丸 尚

一般のライオンズメンバーがガバナーを一番身近に感じる瞬間、それが地区ガバナー公式訪問です。3リジョンにおいては、1ゾーン・2ゾーン12クラブの合同例会として、そして、333-C地区皮切りの公式訪問として挙行されました。

地区ガバナーL正木守ライオンが目指す楽しい例会を実現しようと、限られた時間と予算の中で、3リジョンが一丸となり準備を進めた結果、細かいミスはあったものの参加者全員がガバナーを身近に感じ、楽しい充実した時間を過ごすことが出来たと自負しています。



特に、公式訪問例会の中での地区ガバナーの熱い思いのこもった挨拶は、25分間にも及びましたが、時間の経過を感じさせない素晴らしい挨拶でした。参加メンバー全員が正木ワールドに引き込まれ、スピーチの終了時には惜しみのない大きな拍手が鳴り止まず、最近入会したばかりの会員も、ガバナーの分かりやすく熱のこもったスピーチに聞き入り、ライオンズの精神や理念が理解できたような気がすると言っていました。

地区ガバナーの熱い思いを受け止めた後は、お楽しみのガバナーを囲む会の始まりです。その中でも、T・Tタイムで行われた12クラブ対抗の仮装カラオケ大会は、地区ガバナーを始めとした地区役員が採点し、順位を決定

するという熾烈なもので、各クラブの意地と名誉を賭けた激しい戦いとなりました。優勝は、前地区ガバナーのL長沢千鶴子ライオンを飛び道具として使った、なの花LCが優勝をかざりました。そして、T・Tタイムの最後に、ガバナー自らがマイクを持ち、舟木一夫の「仲間たち」を熱唱し始めると、誰からともなく壇上に上り、地区ガバナーを囲む輪が自然と出来上がっていきました。正木地区ガバナーの「人徳」と「熱い思い」が3Rのメンバーの心に火を付けた結果が、人の輪として可視化されたものであると感じました。

地区ガバナーを身近に感じ、その方針を聞き、熱い思いに答え、そして同じリジョンの仲間たちと結束を味わった有意義なガバナー公式訪問合同例会でした。

日時：9月7日（土） ナプシャルズ南柏

4 R－地区ガバナー公式訪問合同例会

1 Zゾーン・チェアパーソン L 藤原宏高 2 Zゾーン・チェアパーソン L 林 弘行

4R 1Z及び2Zでは、2013年9月28日（土）の午後4時から地区ガバナーとの懇談会を、午後5時30分より同7時まで合同例会を、午後7時から同9時まで懇親会を開催いたしました。

私たちのゾーンに所属するクラブ数はレオクラブを入れて合計で10クラブですが、ガバナー公式訪問合同例会の出席者数は、地区役員を入れて140名にもなりました。

これだけの参加者数があると、合

合同例会資料の作成も含めて直前まで準備に追われました。

今年度の工夫としては、各クラブ会長から文章でクラブ報告を事前に提出していただき、これを編集の上、印刷して会場で配布させていただいたことです。合同例会でのクラブ会長のクラブ報告の時間を省略することができたことから、ガバナーの講演時間は30分程度とることができました。しかし予想外だったのは、司会進行がスムーズに進行した反面、

ガバナーの講演時間が30分を優に超えたことです。ガバナーの熱のこもった演説に、参加した会員全員が真剣に耳を傾けておりました。何事も形式的に終わる嫌いのあったガバナー公式訪問合同例会では、極めて異例な出来事と言わざるを得ません。これぞ本来のライオンズクラブのあり方であると感銘を受けました。

その後の懇親会のアトラクションでは、阿佐ヶ谷姉妹をお呼びして大変盛り上がりしましたが、なかなか

地区ガバナー公式訪問

ギャグが受けない場面もあり、喜んだり、心配したりしながら、怒濤のように合同例会は終了いたしました。終わってみれば、ご協力してい

ただいた皆様に感謝する気持ちがこみ上げてきて、ZCとしての責務の重さをあらためて実感した次第です。正木地区カバナー、梶尾地区幹

事、本当にお疲れ様でした。

日時：9月28日（土）
船橋グランドホテル



5 R－地区ガバナー公式訪問合同例会

1 Zゾーン・チェアパーソン L石原孝志 2 Zゾーン・チェアパーソン L佐藤英世

平成25年9月22日（日）船橋グランドホテルにて、5 R 1 Z・2 Z 合同のガバナー公式訪問例会が124名の参加を得て開催されました。

当日は公式訪問例会に先立ち、キャビネット役員と各クラブ三役の打ち合わせも行われ、地区ガバナーL正木守より、本年度333-C地区の運営方針に対する各クラブの取り組みについて、各クラブ会長からの発表に対し細やかな指導や熱心な討議がなされ、正木ガバナーの熱き思いが各クラブの三役に伝わった（洗脳された？）と思われました。

公式訪問例会においては、正木ガバナーのご挨拶の中で「将来のため

今動き出そう愛ある奉仕」のスローガンのもと今期の重点目標について熱弁を振るわれて一同熱心に傾聴されました。

また今期入会の新入会員に、正木ガバナー直々にピンを付けていただき、晴れがましい出発点となったのではないかと考えられました。

その後行われた歓迎パーティーでは、地区名誉顧問元地区ガバナーL金井一夫の開宴の言葉の後、同じく地区名誉顧問元地区ガバナーL吉田政勝の乾杯の音頭にて開宴の運びとなりました。

開宴中には正木ガバナーと同じ千支である辰年のメンバー、並びに女

性会員が壇上に招かれ、正木ガバナーとの記念撮影が行われ、またMJFパッチの贈呈も行われました。

また、正木ガバナーが各テーブルを回り、正木ガバナーを囲んでの記念撮影も行われ和気藹々の中、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

今回第一副地区ガバナーL波木奏美もご参加いただき、ライオンズ・ローアをお願いしまして、名残惜しいなか参加者一同による「また会う日まで」を合唱し、余興として1 Zゾーン・チェアパーソンL石原孝志の開宴のゴングにて午後2時半にお開きとなりました。

日時：9月22日（日） 船橋グランドホテル



6 R－ガバナー公式訪問6 R 1 Z・2 Z合同例会

1 Zゾーン・チェアパーソン L嶋田建弘 2 Zゾーン・チェアパーソン L町田和義

今年度の公式訪問例会前のガバナーとの昼食会は、6 Rのキャビネット構成員の提案で各クラブ会長と幹事が出席することになりました。

第一副地区ガバナーL波木奏美の歓迎の挨拶と地区ガバナー正木守の

挨拶が終了しても各会長、幹事が緊張していましたので先に食事をとることにしました。一息ついたところで、会長、幹事の自己紹介をして雰囲気緩和のところでガバナーの熱き思いを語っていただき、全員感銘して聞き入っていました。

公式訪問合同例会登録者は172名で大変な熱気に包まれました。

司会を千葉ライオンズクラブのL大濱洋一に務めて頂き、スムーズに進行しました。諮問委員会で役割分担を決めましたので、各クラブ会長も大変スムーズに役割を務めてくだ

地区ガバナー公式訪問

さいました。ガバナーの地区運営方針を熱くじっくり語って頂くようにスムーズに進行しすぎたので、ガバナーを少々戸惑わせてしまいました。

今年度は、ガバナー公式訪問例会で千葉ネオライオンズクラブより新入会員の入会式を行い、ガバナーより、直々にバッチを胸につけて頂きました。

また、7月、8月より、当日までに入会した新入会員8名にもガバナーより

リピンバッチが贈呈されました。

各クラブ活動報告は諮問委員会のリハーサル通り、3分以内で各会長がわかり易く要領よく報告を行って、地区ガバナー、キャビネット幹事が大変感心して、お褒めの言葉をかけて頂き、苦勞が報われました。

ガバナーからの記念品贈呈も各クラブ会長に直々に記念品を手渡して下さいました。ライオンズローアもZC、各クラブ会長が前列に整列し

て、ガバナーの発声で元気よく高らかに吠えました。

懇親会では最後に全員輪になって高らかに「また会う日まで」を合唱しにぎやかで和やかな祝宴も終了しました。

また、千葉ネオLCが南三陸町絆の環境バッグ46個を販売して。完売し収益金を復興支援に寄贈しました。

日時：9月8日（日） アパホテル&リゾート東京ベイ幕張



7R-地区ガバナー公式訪問合同例会

1Zゾーン・チェアパーソン L竹下怜子 2Zゾーン・チェアパーソン L山元坤女

7Rでは、10月12日（土）、市原市市民会館を会場として開催。来賓としてL正木地区ガバナー・L波木第一副地区ガバナー・L梶尾キャビネット幹事・L牧野キャビネット会計・L岡野地区名誉顧問の5名をお迎えし、8クラブからは85名の出席で、総勢90名が一堂に会しての合同例会となりました。

当日は、ガバナーとクラブ三役懇談会・合同例会・ガバナー歓迎昼食会の三部構成で実施しました。

ガバナーと三役懇談会は、8クラブの会長による活動報告と、それに対するガバナーのご指導がその内容ですが、正木ガバナーは一方的なお話ではなく、会長との一対一の「対話」の形をとられました。様々なケースについてのご指導があり、今後の活動に役立てることのできる貴重な研修の場となりました。

続く合同例会では、ガバナー歓迎

の挨拶に始まり、ガバナーの人物紹介・クラブ活動報告・献血活動報告・入会式（新会員4名）・アイバンク協会報告等々あまりにも盛り沢山で、最重要事項の「ガバナーの地区運営方針」についてのお話に十分な時間を当てられませんでした。ガバナーに大変失礼なことをしてしまったとすっかり落ち込んでしまいましたが、気持ちを取り直し、思い切って12月1日（日）に「正木ガバナーのお話を聞く会」を新たに計画しました。合わせて、GLT地区コーディネータL若林一の「望ましいクラブ運営とは」をお話しいたいて、新入会員研修会も兼ねて実施しようということになりました。現在、各クラブに対して出来るだけ大勢の参加を呼び掛けております。

歓迎昼食会では、お料理はお弁当形式、アルコール無し、ウーロン茶持ち込みで経費を極力低く抑えまし

た。この会に出席したメンバーの感想は下記のとおりです。

- ・三役懇談会で、ガバナーと各会長の一対一での対話の中でのガバナーの助言は今後の活動に大変役立つと思います。
- ・ガバナーのお話は、私たちが「慣れ」からついマンネリになってしまっていることに気づかせてくれるものでした。
- ・登録料を低く抑えられていてよかった。（会員数の少ないクラブにとっては特に）
- ・ガバナーの情熱的でわかりやすいお話に引き込まれました。

それぞれに沢山のことを学ぶことのできた公式訪問でした。これを糧として年度後半の活動に取り組んでゆきたいと思います。

日時：10月12日（土）
市原市市民会館



8 R-地区ガバナー公式訪問合同例会

1Zゾーン・チェアパーソン L御園生浩士 2Zゾーン・チェアパーソン L尖倉昌子 3Zゾーン・チェアパーソン L中澤寛義

10月6日(日)成田ビューホテルにて「地区ガバナー公式訪問合同例会」が開催されました。地区ガバナーL正木守をはじめガバナーチーム、元地区ガバナー等総勢196名の皆様にお集まりいただきました。

合同例会に先だち「クラブ三役懇談会」が行われました。各クラブが地区ガバナーを囲み活発な議論をかわしました。

合同例会では、地区ガバナーから運営方針の熱い思いが語られ「人の為に何かをしたいという思いが行動

につながり、そして、それが自分自身の喜びや誇りにつながる」という言葉をいただき改めてライオンズのモットーで「相互理解の精神」を再認識しました。その後、記念品の授与、各クラブの活動報告と続き最後に元ガバナーL塚田雅二よりアイバンク協会からの協力依頼がありました。

懇親会では、田中美智子様による剣舞、会員による四季のうつろいのパフォーマンス、災害時による復興ソング(花は咲く)が歌われ皆で口

ずさみ盛り上がりしました。又、四季のうつろいのパフォーマンスでは、地区ガバナーご自身にも舞台に上がっていただき、共に腕をくみ輪になりました。「地区ガバナーようこそウオー」。

地区ガバナー、キャビネット役員の方々、1Z,2Z,3Zの会員同志の交流が一段と大きな輪になり有意義な合同例会でした。

最後に、各クラブ、関係者各位の協力のもと無事公式訪問ができました事を心より感謝申し上げます。

日時：10月6日(日) 成田ビューホテル



9 R-地区ガバナー公式訪問合同例会

1Zゾーン・チェアパーソン L石田泰紀 2Zゾーン・チェアパーソン L飯塚丈夫 3Zゾーン・チェアパーソン L宮應利幸

9 Rのガバナー公式訪問は10月5日(土)に、2ゾーンのゾーンチェアパーソンL飯塚丈夫を中心に大栄ライオンズクラブがホストクラブの大役を担って、TKPガーデンシティ成田を会場に9 Rの会員245名の参加を得て盛会裡に開催されました。

合同例会に先立ち、クラブ三役打ち合わせ会議が13:30より行われ、ゾーンチェアパーソンの挨拶の後、ガバナーの挨拶があり、この際にガバナーよりリジョン内の各クラブ会長との交流を計る形式で、9 Rの中

で14クラブの活動報告をいただきました。

各クラブは独自のアクティビティーを紹介しておられました。

銚子クラブは、CN 50周年を迎え、会は充実しており、会員は準備に余念の無い日々を過ごしておられます。青少年健全育成に力を注ぎ、野球大会は40回、剣道大会は48回を実施し、地域市民との交流は定着し益々盛んに赴いております。

東庄クラブは、会報を年間3回発刊しておられる。北総育成園施設への慰問交流は草創期より行う。

銚子中央クラブは、今年8月に会員1名がアイバンクへ献眼いたしました。親クラブとして、常にレオ活動を見守っています。

神崎クラブは、成毛会長の思いを述べていただき。更には、青少年育成活動として、剣道大会・マラソン大会を主催し開催しておられます。

小見川クラブは、青少年育成事業として、中学卓球大会を開催しております。また、小学校運動会に参列の老人に弁当の配給を行っておられます。

佐原クラブは、クラブ主催の献血



地区ガバナー公式訪問

を年間3回実施しております。身障者支援として、あけぼの園の子供達と一日食事等の付き合いで楽しく過ごします。高等学校にて、手話講習会を実施しております。

八日市場クラブは、平和ボス

ター作成に5校に依頼して実施します。

多古クラブは、中学校駅伝大会を主催します成田野球大会に協力します。

大栄クラブは、献血活動が盛んです。幼稚園・保育園児童を

ナッツ自動車学校へ招いて楽しく過ごします。ほたるを鑑賞する会を実施するために、クラブ会員で会場作りに汗しております。

日時：10月5日（土）TKPガーデンシティ成田

10 Rー地区ガバナー公式訪問合同例会

1 Zゾーン・チェアパーソン L 栗田秀美 2 Zゾーン・チェアパーソン L 竹内廣一

L 正木地区ガバナーの日頃の行いが良いのか、私たち二人のゾーンチェアパーソンの行いが悪いのか、台風27号の直撃はまぬがれたものの午後になっても雨はやまず、残念ながら予定していた記念植樹会は延期となってしまった。

人間万事塞翁が馬、植樹会延期で余った時間どうしようと二人で相談していたら、次の地区ガバナーとの打合せ会議正木ガバナーのスイッチが入り、クラブ三役との懇談で熱血トークを展開。L 竹内と次の合同例会の段取りをヒソヒソと打合せをしていると「L 栗田、聞いてる？」とピシャリと諫められ一瞬学生時代にタイムスリップ「廊下に立ってろ！」と言われるのかとヒヤヒヤしながら時間を確認すると見事に予定時間に終了。

「おかえりなさい」「ただいま」で

始まった合同例会。ホテル支配人でもあるL 保科から「誰がこんなに人を集めたの!」と言われるぐらい、会場からあふれんばかりの出席者と熱気。そして始まったL 正木ガバナーワールドで語られた、「美しい村を作ろうと思わなければ作れないと同じように素晴らしいライオンズクラブを作ろうと思わなければ作れない」というガバナーの熱いメッセージは参加した全員の心に届けられたと思う。

L 正木ガバナーが所属する君津ライオンズクラブが長きにわたり支援している、きみつ少年少女合唱団の歓迎コンサートから始まった地区ガバナーを囲む夕べはとても和やかに楽しく刻が過ぎ、10R 全体の親睦と結束がより一層深まるとともに10R 一丸となって「美しい村作り」を行う事を誓い合えた。

最後に「人は不合理、非理論、利己的です。気にすることなく人を愛しなさい。あなたが善を行うと利己的な目的でそれをしたと言われるでしょう。気にすることなく善を行いなさい。目的を達しようとする時、邪魔立てする人に出会うでしょう。気にすることなくやり遂げなさい。…あなたの中の最良のものを世に与え続けなさい。蹴り落とされるかもしれませんが、それでも気にすることなく最良のものを与え続けなさい」

今奮闘されているL 正木地区ガバナー、3年前「333-C 全体が活性するためには房総地区からガバナーを出さなければいけない。」とL 正木をガバナーにするためにご尽力された故L 竹下徳永元ガバナーにマザーテレサの言葉を贈り締め言葉とさせていただきます。

日時：10月26日（土）ホテル千成



11 Rー地区ガバナー公式訪問合同例会

1 Zゾーン・チェアパーソン L 伊藤領英 2 Zゾーン・チェアパーソン L 田村貞夫

台風襲来を思わせる大雨の10月20日（日）、鴨川市の鴨川ホテル三日月において、L 正木ガバ

ナーをお迎えして、11Rのガバナー公式訪問例会を1Z、2Z合同で開催しました。

出席者は地区役員を含め109名でした。

合同例会は、まずL 正木地区ガバ

地区ガバナー公式訪問

ナーと地区役員、そして、9クラブ三役との打合せ会を開催しました。

L正木ガバナーのライオンズに対する熱い思いを語りたいからの要望により20分延長して、13時より14時20分までとなり、L正木ガバナーのエネルギーで、熱情あふれる挨拶及び方針説明に圧倒されました。

その後、14時30分より公式訪問の1Z、2Z合同例会が開会され、L佐藤則泰地区情報委員の司会により、L石川良和南房総LC会長の歓

迎の挨拶、1Z、2Zのゾーンチェアパーソンとの挨拶のあと、L正木ガバナーによる今年度の方針説明があり、その中でL正木ガバナーは「5つの重点目標」と「美しい村」について話されました。

特にライオンズクラブ活動は、楽しくなければならぬ、楽しい奉仕活動、楽しい例会にしてほしいと強調されました。

その後、L塚田雅二元ガバナーによるアイバンクへの協力依頼のお話のあと、L松崎正元ゾーンチェア

パーソンのライオンズローアで閉会ゴングとなりました。

17時よりの「正木ガバナーを囲む会」は鴨川LCのL岩瀬清高幹事と房州朝夷LC会長L早川金光の司会で、L野口明行元ゾーンチェアパーソンのウィサープによる幹盃で始まり、余興として「主基ミュージックトリオ」の皆さんのギター演奏があり、大勢のメンバーがギターの生オケで歌い、にぎやかに終了。

全員手をつないで「また会う日まで」を合唱して閉宴となりました。

日時：10月20日（日） 鴨川ホテル三日月



12 Rーガバナー公式訪問合同例会

1Zゾーン・チェアパーソン L佐瀬 晃 2Zゾーン・チェアパーソン L伊藤正昭

台風26号が去って間もない10月19日にL正木守地区ガバナーをはじめとするガバナーチームをお迎えし、第12リジョン地区ガバナー公式訪問合同例会を開催しました。午前の部のガバナーとクラブ三役の意見交換の場で、L正木ガバナーより、今年度の重点目標の説明を熱く語って頂き、その思いが十分に伝わり理解された事と思います。各クラブからは自クラブの誇れること困っていることの発表があり、誇れる事については、総じてどのクラブもメンバー同士の絆が強く、楽しく例会もやり奉仕活動に励んでいるとのことで、一方、困っていることは、会員増強が大変難しく思うようになってきたことでした。

それに対し、ガバナーからは、クラブ会長が思いとリーダーシップを

もって、会長自身がまず行動してくださいとのエールがありました。閉会の後、数クラブの会長さんが、ガバナーと話合っている姿を目にし、今後の活動に手ごたえを感じました。

昼食・休憩の後、クラブ三役以外のクラブメンバーも集まり、12リジョン合同例会が開会となりました。式次第により、開会セレモニー、クラブ現況報告の後、L正木守地区ガバナーより、全クラブ員に対しご挨拶を頂きました。お話の中で、「入会の一年間、見ず知らずの中で誰も声を掛けてもらえなかった。このことが一番さびしかった。もう辞めてしまおうと思った。だからメンバーひとりひとりの居場所を作ってあげることが大切だと身をもって経験し。YCE委員の時には、派遣生の悩みを真剣に聞いてあげ、またキャ

ンプの夜に騒いでいる子供たちを君たちは、国の大切な宝物なんだ」と論じたことなど貴重な経験を語って頂き、会場の参加者も興味深く真剣に聞き入っていました。

懇親会では、ガバナー、ガバナーチームの皆さんと参加した各クラブメンバーが親しく交流を深める事ができ、アトラクション deha

地元浜太鼓の勇壮な音に会場は大いに盛り上がり、「また会う日まで」を全員で歌い閉会となりました。

この一日、ガバナーの思いが12リジョンの皆さんに伝わった事でしょう。

日時：10月19日（土）

プラザハイアン茂原



千葉ライオンズクラブ

格調の高さの中にも情熱を感じる

ー歴史と伝統のCN50周年記念の集いー

50周年

半世紀である。組織でも人でも、必ず一時

は退潮期がある。いかに新陳代謝を活発にし、次世代との世代交代をし、再び上げ潮へと導いていくのか。これは日本中のライオンズクラブが等しく直面する問題であって、その問題にまさしく先陣を切って取り組んでいるのが、チャーターナイト50周年を迎えた千葉ライオンズクラブである。

記念の集いは10月27日（日）、千葉市のカンデオホテルズ千葉で行われた。式典は県立千葉高等学校オーケストラ部の演奏によるオープニングセレモニーに始まり、L岡野正義地区名誉顧問の開会の辞、L大浜洋一会長の開会ゴング。L正木守地区ガバナリーや熊谷俊人千葉市長の来賓祝辞と続く。その様子は一言で言えば「荘厳」。歴史の長さに裏打ちされた記念式典である。そうした雰囲気や「敷居が高い」と評される向きもあるが、そうした格調の高さを堅守し得たからこそ、50年の長きにわたってクラブを維持し得たともいえるのではなからうか。そう感じることの出来る式典であった。

では、記念アクティビティはというと、JRPSや盲導犬協会、アイバンクといった視力関係アクティビティにはじまり、東日本大震災復興支援からカンボジア支援と大変幅の広い、全方位的にニーズを捉えているものである。紙幅の関係で全てはお伝え

できないが、特に目を引いたのは式典第二部にも関係する、心筋梗塞等での蘇生率が飛び抜けて高い米国シアトルを目標に、AEDのより一層の普及のために、AED講習セット20セットの贈呈である。それと共に第2部ではL大浜会長自らが心筋梗塞になったと仮定する寸劇での心肺蘇生講座であり、熊谷市長も人工呼吸を行い参加者の注目を集めた。社会のニーズを察知し、アクティビティに対する目的意識を明確にした素晴らしい事業であるし、なにより行政や医師会等も巻き込んだのスケールの広い事業に出来たのは、千葉ライオンズクラブの歴史の長さの証左であろう。次の半世紀への飛躍を期待したい。



〔文：地区情報委員長 L平野寛明 写真提供：千葉ライオンズクラブ〕

市原ライオンズクラブ 市原コスモスライオンズクラブ 市原グリーンライオンズクラブ

3クラブ合同アクティビティ

あずまや —上総更級公園に四阿を寄贈—

これは、来年2月23日にオークラ千葉ホテルにおいて開催予定の市原ライオンズクラブ（50周年）、市原コスモスライオンズクラブ（20周年）、市原グリーンライオンズクラブ（15周年）の3クラブ合同CN記念例会事業の一環である。新設なった市原市上総更級公園内に四阿を設置し市民の憩いの場所を提供することを目的とした。

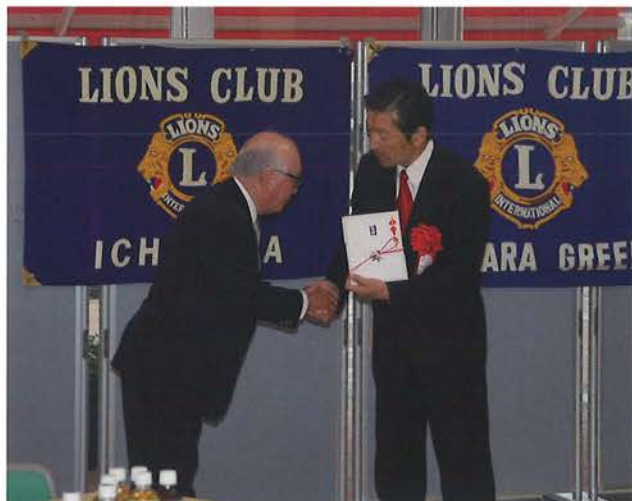
また、寄贈式は、隣接する会議棟内でL庄司CN実行委員長から目録が佐久間市原市長に渡された。内容は、3m×6mの四阿と各クラブ名を刻み込んだ石碑の市原市への寄贈である。目録贈呈後は、ソフトドリンクで乾杯し和やかなうちに式を終了した。

当日はあいにくの雨のため、落成式のテープカットは四阿の屋根の下で、寄贈式は公園内会議棟で執り行った。

テープカットは、佐久間市原市長、市原ライオンズクラブL庄司CN実行委員長、L宮原・L鈴木・L保坂の各クラブ会長が参加し実施された。

10月20日（日） 市原市の上総更級公園内において、佐久間市原市長をはじめ市関係者と市原ライオンズクラブ・市原コスモスライオンズクラブ・市原グリーンライオンズクラブの関係者が一同に集い、完成した四阿（あずまや）の落成式兼寄贈式が執り行われた。

り、来年CN50周年を迎える市原ライオンズクラブとの一方ならぬ縁を感じるものである。今年は、この四阿を始め市原市宮田交通公園への時計台の寄贈等数々のアクティビティをこなし、更なる50周年への奉仕活動に弾みを付けて行くものである。



〔文：市原ライオンズクラブ幹事 L倉永富男 写真：市原ライオンズクラブ L古川 勇〕



光ライオンズクラブ

20年来の継続環境保護アクティビティ

ーアカウミガメの保護活動ー

赤海亀

の保護活動に光ライオンズクラブが取り組み20年が経過し、大きな事業となっています。

山武郡横芝光町木戸・尾垂海岸3キロの砂浜を、釣り師にも協力頂きながら先ず上陸産卵を発見する事から始まります。産卵箇所に車両が進入しないように杭打ちとロープ張りをし、孵化を待ちます。その間産卵のため次々上陸してくる亀に備え、見回りをします。産卵してから60日間で孵化します。轍から海にたどり着かない子亀や方向音痴の子亀を足跡をだどり探すこともしばしばです。

『今年の活動状況の結果』

今年は6月23日に上陸産卵し、8月6日まで8頭が産卵しました。1頭当たり平均115個産卵合計924個、孵化数合計526孵化率55%、脱出数429個脱出率83%でした。

『光ライオンズクラブの実際の活動』

6月から毎朝3キロの海岸を二人で手分けをして見回り、メンバーと協議し杭打ち、ロープ張り、産卵箇所の確認。孵化近くなるにつれ、海側の車両の轍を平らにする作業をしました。

夜半に子亀の脱出が始まり、早朝釣り師の情報を含め、亀産卵所の確認をしメンバーに知らせ、海にたどりつかない子亀の



足跡を追い保護しています。予定日を過ぎた脱出後の確認掘りを日曜日に実施し、助け出した子亀を保育園・幼稚園・小学生の子ども達と海へ放った。小学生の『伊藤優さん』が光ライオンズクラブの活動について、二枚の絵を書いてくれましたが、少しづつ地域との関わりが進んできたと喜んでいきます。

『今後課題としているいくつかについて』

- ①25人の会員の活動の限界
- ②地域社会へ活動を広める

この他、台風や雨が多い年、低温の年等自然の天候には対応はできない。それでもこれまで培ってきた活動に誇りをもって、光ライオンズクラブの奉仕活動に邁進したい。



〔千葉県自然保護指導員：光ライオンズクラブ L大木 清

環境保護委員長：L加瀬正義〕



第22回献血推進研究会

日本ライオンズのお家芸とも言えるのが「献血関係アクティビティ」である。わが 333-C 地区においても赤十字血液センターと連携して毎年着実に結果を上げているが、まだまだ血液が必要とされている事実に変わりはない。未だ献血を実施していないクラブのためにも、第22回献血推進研究会の模様をお知らせする。

22回目の研究会を開催

平成25年9月25日（水）、第22回献血推進研究会がホテルスプリングス幕張で開催された。当日は小雨の降る天候であったが、地区内各クラブより200名の参加者を得て開催の運びとなった。

研修会は冒頭、L梶尾利徳キャビネット幹事の開会の言葉で始まり、L正木守地区ガバナーより「いまだ献血アクティビティを行っていないクラブは一回でも。既に行っているクラブは更に一人でも多くの方にご協力いただけるようにお願いしたい。」と更に献血アクティビティを推し進めたいとの意気込みのこもった挨拶で幕を開けた。

例年この研究会は地区献血・献眼・献腎推進委員会の主導で、様々な趣向で進められてきた。この研究会では前年度の地区献血・献眼・献腎推進委員長の前田英俊と、副委員長のL児玉かおるに千葉県赤十字血液センターより感謝状が贈呈され、その労がねぎらわれた。

つづいて同血液センター所長である浅井隆善氏より、「血液の安定供給のためには献血して下さる方が大切なのは言うまでもないが、その一方で普段は目に見えない、ライオンズクラブ



← L正木守地区ガバナー

輸血とは臓器移植と同義である

をはじめとするそれをサポートして下さる方々がいて初めて実績が上がっていくのです」と感謝と更なる協力を求める挨拶があった。

研究会中盤では、地区献血・献眼・献腎推進委員長のL萱野孝一より、333-C地区の献血推進活動について説明がなされた。言うまでもないことだが血液は未だ人工的に作ることが出来ない。突き詰めて考えれば、輸血を必要としている方々のみになって考えれば、輸血とは臓器移植と同じ意味

を帯びてくる。献血活動とはそれほど尊く、慈愛に満ちた行為なのである。というのもL萱野委員長自身より研究会で披露があったが、委員長夫人が過去に手術で自身の貯血血液では足りず、献血された血液に救われたとのことである。「情けは人のためならず」と思って献血にご協力いただきたいとのことであった。

それでは333-C地区の献血アクティビティの状況は昨ライオンズ年度末ベースで見ると、献血回数は610回、血液量にすると12,076,400CCであり、千葉県下で行われる献血量の18.4%にライオンズクラブが関与していることとな



→ L前委員長とL児玉前副委員長

る。委員会としては今年度このシェアを20%まで増加させることを目標とし、未だ献血アクティビティを行っていないクラブには新規事業として献血活動を、そして既に行っているクラブにも新たな献血会場の掘り起こしをお願いしたいとの方針を伝えた。

それに引き続き、学生をはじめとする青年層への献血普及を狙って千葉県学生献血推進協議会への活動支援金の贈呈が行われた。若年者への献血の啓蒙普及は全国的な課題であり、より一層の充実を期待したいところである。

また、血液センター推進第一副部長の末吉和夫氏より「血液事業の現状」と題しての講話があった。千葉県につ



→千葉県学生献血推進協議会への活動支援金の贈呈

いては、以前は血液が自給できない県とされていたが、この数年は企業や関係団体の協力もあり自給できているとのこと。ただし異常気象や気候の変動等で簡単に献血量は減少しうるので、引き続き献血推進にご協力いただきたいとの講話であり、特に4月中旬、8月中旬、9月中旬、12月、1月中旬に献血量が減少することを統計的に説明されて、更なる取り組みをお願いしたいとの趣旨である。

事例発表のポイントとは？

今年度の事例発表は、8 R 1 Zの酒々井ライオンズクラブと10 R 2 Zの



→L菅野委員長長の発表

君津ブラチナライオンズクラブ。その共通するポイントは「アウトレットモール」。酒々井ライオンズクラブでは従来、ふるさと祭で年に一回献血アクティビティを行っていたが、今年より地元酒々井町に「酒々井プレミアムアウトレット」がオープンし、そのアウトレットモールを会場として積極的に献血活動を推進しているとの報告がL大木保夫会長より報告された。会員一丸となって献血推進に傾注しているとのこと、地元の高等学校や大学等を新規会場として更に献血アクティビティを強化していくのはあるが、現在献血の粗品として「食パン」を提供しているが、そうした資金の捻出に苦



→L大木 酒々井LC会長

慮している等の現状も開陳された。もう一件の事例発表は君津ブラチナライオンズクラブ。エクステンションされて3年目を迎えるクラブであるが、クラブのメインアクティビティが献血なのが同クラブ。一昨年に木更津市にオープンした「三井アウトレットモール木更津」を会場として献血アクティビティを行っている。L地引正会長の報告は映像を交えて行われたが、こちらも会員一丸となって声かけに汗を流しているとのこと。会場が海岸近くであるために、冬期間は寒い海風の中、そして夏の暑さにも負けずにメンバーが君津市のおもてなしキャラクターである「きみぴょん」や千葉県の



→L地引 君津ブラチナLC会長

おもてなしキャラクター「ちーば君」の着ぐるみを着て献血のお願いをしているとのことである。クラブが生まれて間もなく、メンバーも皆ライオン歴が浅い人ばかりであるがある日、アウトレット会場で呼びかけ中、他地区のライオンよりライオンズが声かけをされているならと献血してくれ、ライオンズの繋がりを感じできたとの体験談も報告された。まさしく「誰かのためにやらなければ」と皆が自覚できるアクティビティとの発表であり、それぞれ資金面や人員面で苦労もあるが、継続してやり通す信念を確認できた事例発表であった。

涙を誘う「まひろちゃん」

研究会の最後を締めくくったのは、献血推進DVD『まひろちゃん』の上映と、まひろちゃんの父親である山元忠良氏の体験発表である。

DVDに登場する「まひろちゃん」は急性骨髄性白血病のため2009年に5歳で亡くなるのだが、闘病中看護師である忠良氏は離婚、休職して2年4ヶ月の間娘の看病に付き添い、恒常的に必要となる輸血のために、友人と共に地元の広島県竹原市で献血を訴えたという。結果的にまひろちゃんは幼

←涙を誘う山元忠良氏の発表



くして天に召されてしまったが、その想いを受けて竹原市では「まひろちゃん献血」という運動が広がり、いまだに市をあげての献血運動が推進されているとのことである。

参加者一同、感動を覚えぬものはいない雰囲気となった講話であったが、癌や白血病等で恒常的に輸血を必要とする患者さんが沢山いることを再認識した研究会となった。ぜひともより一層の献血推進のために、未実施クラブは一回でも献血アクティビティの実施を。既実施クラブにおいても更に献血者が増加する方策を期待したい。

【文・写真 地区情報委員長 L平野寛明】



献血Q&A

Q. 献血できる年齢は？
A. 男性は17歳～69歳
女性は18歳～69歳です

(400MLの場合)

Q. 献血可能な基準は？
A. 男性は体重45kg以上
女性は体重40kg以上

男女ともに最高血圧
90 mmHgとなっています。

(200MLの場合)

Q. 薬を服用していると出来ないのですか？
A. 薬の種類によってはご遠慮頂く場合があります。

Q. 問診時にご相談下さい。
A. 外国滞在歴があると出来ないのですが？

Q. 英国等一部の国にある期間滞在しているとお断りする場合があります。

問診時にお尋ね下さい。

Q. 献血すると血液検査もしてくれるの？
A. 希望者には肝機能やコレステロール等の生化学検査8項目、血球計数検査8項目の検査結果を郵送でお知らせいたします。

Q. 献血するとエイズ検査もしてくれるの？
A. 献血血液の安全性確保のために肝炎やHIV等の検査をしています。検査結果をお知らせすることはありません。エイズ検査のための献血はお慎み下さい。

子供達を薬物の魔の手から守る！

薬物乱用防止教育 認定講師養成講座

子供達のライフスキルとしての
薬物乱用防止教育

333-C地区並びに公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター共催の薬物乱用防止教育認定講師養成講座が11月18日月曜日、千葉県経営者会館で開催された。当日は約130名のライオンが認定講師資格を取得すべく会場に集まり、大ホールが満席となつての開催である。

この養成講座は、薬物乱用防止教育に関する知識及び技術を身につけた講師を養成し、地域や学校等における薬物乱用防止教育を普及させるべく、内閣府をはじめ、厚労省・文科省・警察庁が後援した講座である。333-C地区では、ライオンズクエスト委員会が企画運営の一切を取り仕切っている。つまり薬物乱用防止教育は、ライオンズクエストプログラムの一部なの



→麻薬Gメンである吉田友也氏

である。ライオンズクエストプログラムは子供達が成長していく上での様々なマイナス要因。例えばいじめや人間関係の構築の仕方から飲酒や喫煙、そして薬物の魔の手から自分をどうしたら守れるかという「ライフスキル」、生きる力を身につけるための広範な教育プログラムである。L正木守地区ガバナーも挨拶で申されていたとおり、一昔前であれば子ども達に薬物の話などは「寝た子は起こすな」といわれたものだが、もう考え方を改めなければいけない時代なのである。

薬物汚染は確実に身近に

講座は先ず、実際に授業で使うDVD及び333-E地区土浦環LCのL万本盛三医学博士による医学的見地からの講義映像で始まった。DVDは生徒でも解りやすく15分にまとめられており、L万本の映像講義も、なぜ薬物がいけないかを医学的見地から優しく説いたもので、非常にわかりやすいものであった。

次に講義をしていただいたのが、千葉県健康福祉部薬務課の吉田友也氏である。千葉県での薬物対策について講義していただいたが、千葉県健康福祉部と聞くとお役所かと思うのが普通だ

が、実は薬物に対する逮捕権と小銃器の携帯を許されたいわゆる「麻薬Gメン」なのである。

であるから実際の捜査経験に基づく話が展開された。従来覚せい剤という、暴力団や外国人ブローカーがひっそりと売買しているというイメージであったと思うが、過日テレビのドキュメンタリー番組で放映されたそうだが、千葉駅ロータリーに駐車していた車の車内で覚せい剤が次々と売買されていく、しかもそれらは互いに普通の「素人」であったそうである。未成年の薬物事犯による検挙も、千葉県内では年間10数件あり、決して人ごとではなく、薬物の魔の手は確実に迫っていることを実感できたはずだ。



←し栗飯原靖司のタバコについての発表



新しいタイプの 薬物事犯にも注意を

麻薬や覚せい剤といった従来型の薬物にたいして、新しい薬物事犯が急激に増えていることも併せて報告された。それは、「マジックマッシュルーム」や「ハーブ」「お香」と称して店舗やインターネットなどで販売されているもので、大麻成分に非常に似た成分が含有されているため、大麻吸引と同じような効果が期待できる。成分の化学構造式が大麻とは微妙に違うため法令の対象にならない「脱法ドラッグ」と称されているものだ。昨年の薬事法改正で取り締まりの対象となったが、それまではまとめて取り締まる法律がなく、爆発的に流行し、例えば自動車の暴走事故や呼吸困難などでも社会問題となったのは記憶に新しい。法律改正によって取り締まれるようになったと

はいえ、インターネット等での闇通販は後を絶たず、その手軽さからまだまだ若年者層での流行に歯止めはかかりそうにない。試しにインターネットで「合法ハーブ」と検索してみると、沢山の通販サイトが出てくる。中をのぞいてみると「当店の商品は薬事法の規制対象外です」と謳っている。こうした賞品の中にも、依存性の強いものや大麻類似成分が含まれている場合がある。子ども達が興味本位でこうした通販サイトを利用したらどうなるだろうか。状況は日々刻々変化しているのである。講義を行う我々ライオンも、知識や情報の習得に努めねばならないのではないだろうか。

タバコを薬物乱用の 入口ととらえる

ゲートウェイドラッグという言葉



→し橋爪委員長をはじめクエスト委員会

がある。麻薬や覚せい剤乱用の入り口になるドラッグということである。昔であればシンナーやトルエンに手を付けることを指しただろうが、世界的な潮流で喫煙についてもゲートウェイドラッグと位置づける。愛煙家には耳の痛い話ではあるが、タバコの害毒は医学的にはハッキリしているし、青少年に対する害となればなおさらだ。八千代ライオンズクラブ所属で歯科医師でもあるし栗飯原靖司のタバコに関する講義は笑いあり涙あり、非常に意欲的な講義であった。



↑千葉中央LCによる寸劇

薬物の問題から喫煙の問題を踏まえた講義の後に発表されたのが、千葉中央ライオンズクラブによる寸劇の模範実演と千葉ゆうきのライオンズクラブによる実践的な授業の模範進行であった。学習指導要領の改定により、各小中学校では薬物乱用防止教室が必修化された。子ども達を薬物の魔の手から守る。その気概とやる気さえあれば、ライオンズによって講義は可能なのである。新アクティビティとして考えてみてはどうだろうか？



C.L.C.P 報告

(千葉県ライオンズクラブ カンボジア支援プロジェクト)

カンボジア王国。このインドシナ半島に位置する立憲君主国は、ボルボト派の内戦と大虐殺により国土は疲弊し、社会は混乱。特に知識階級がボルボト政権により根こそぎ虐殺された結果、教育レベルは周辺国と比べても大いに後れを取り、教育インフラも未だ整備されていない状況である。そうした現状に救いの手をさしのべるべく、千葉県内 10 ライオンズクラブで結成されたのが「C L C P」である。その現状と展望をお伝えする。

C L C P 今後の活動方針

千葉ポートLC幹事 L 安倍 正三

1. 小学校建設(子供達の識字率向上を目指し、今後は特にベトナム国境付近の町村が重点地区)
2. イ. 小学校校庭に遊具
ロ. 音楽・体育の授業が無い
ハ. 職員室にパソコン
3. 落成式・懇親会の概要

今年(2013年)は日本・カンボジア友好60周年、アセアン40周年。在カンボジア日本大使館よりライオンズクラブ事業では初めての事業として認定された19校目のプレサリッツ小学校落成式を、現地LCと調整し10月13日(日)に決定。333-C地区L吉原稔貴第二副地区ガバナーを団長とし、9名のライオンと千葉ポートLC 8名の17名が参加しました。

10月上旬よりカンボジアも豪雨のため、小学校付近は冠水、通学路は寸断され校庭の水も引かず、残念ながら落成式は事前に中止となっておりまして。一行は国道よりバスを降り小学校まで耕運機8台に分乗し、約45分かけて学校に到着。落成式が無いので子供達もごくわずかではありましたが、日の丸を持って大歓迎してくれました。新校舎を見学。初めて窓ガラスを入

れていただき、大変明るい教室となりました。1棟5教室で、そのうちの1教室が職員室とのことでした。

落成式は夕方の懇親会と一緒に執り行われました。来賓として駐カンボジア日本国大使館隈丸優次特命全権大使と令夫人がご参加され、C地区より17名、オーバイコーンLC 18名、アンコールワットLC 12名、総勢約60名が参加されました。隈丸大使の御挨拶の後、L吉原第二副地区ガバナーの挨拶、その後カンボジア教育長より今回の学校建設功労勲章が6クラブに贈呈されました。隈丸大使とも雑談が出来、大変有意義な懇親会となりました。

4. 今回のカンボジア訪問所感

カンボジアとの関わり合いは約15年前、プノンペン・オーバイコーンLC・C・CNの頃からです。当時、夕刻のプノンペン空港着陸時、上空から見た市街は街灯がちらほらで真つ暗であり、町中の建物も銃弾跡が生々しい頃でありました。

4~5年前から大きな交差点には信号機が出来、新しいショッピングセンターにはエスカレーターが設置され、様変わりしつつあり、都心に3~4棟の高層ビルが建設中。来春には日本の大手スーパーも進出オープンとのこと。現在は活気にあふれ、子供



↑旧校舎と新校舎。初めて窓ガラスが入ったものの電気はない。



↑ぬかるむ悪路を一行はトラクターに分乗し一時間揺られ目的地に到着した。



今年2月、愛知県の甲田LCのお誘いで、シエムリアップのワット・ポー小学校(生徒数約5,200人)の保健室の贈呈式に参加させていただきました。小学校校長のブン・キムチェン校長先生は、カンボジア各地に日本のライオンズクラブにより多くの小学校建設をしていただいていることと、一週間の日本の研修・教育現場視察の経験から、「日本の小学校のような良い学校にしたい」というお話があり、次々に新しいことを取り入れられていきます。各学校の校長先生も同様、「外国

達も父兄も笑顔を取り戻し、カンボジアの国も成長し続けている事を強く感じます。

5. 小学校の校長先生方の変化



の支援に頼りきるのではなく、自分たちで出来ることを精一杯やろう」と職員。地域によびかけながら、教育改善の意欲に燃えているようです。

多くの校長先生方の共感と小学校を建設して頂いていることに対し大きな心の変化、小学校教育のやる気がみなぎっていることを強く感じました。

ご参考〈学校運営資金〉

1. 国からの予算(児童一人につき130円/年間)
2. 保護者からの寄付
3. 地域からの寄付

カンボジア国民の給料1ヶ月60\$、60\$100\$以下

今回のミッションの3つの思い出

第二副地区ガバナー L吉原稔貴

私たちが訪問した10月13日は大洪水の直後ということで、プノンペンの中へ車で1時間半ほどいったところの国道から6キロ離れたプレイサリツ小学校まで、6~10人ずつに分かれて片道1時間、往復2時間を耕転機で移動したのでした。ぬかるんだあぜ道は耕転機の轍で荒れていて、遮るものなく降り注ぐ直射日光の下、前後左右に激しく揺られたことは、生涯忘れられない思い出です。

また、プノンペン市内で開催された落成祝賀会では、駐カンボジア王国日本国特命全権大使の隈丸優次閣下ご夫妻にお出まじいただき、あたたかいお祝いの言葉を頂戴できたことは、無上の喜びでした。

もう一つ、現地での落成式の様子は、カンボジアの国営テレビが取材され、翌日午後6時からのニュース番組のトップで、1分半ほど全国に流され、ミッションに参加した全員がテレビ画面に映ったことにビックリでした。

C.L.C.Pの学校建設事業も19校目。教育機会を広めることで、カンボジアの人々が二度と学校や病院を破壊することがないよう、心から願っております。

プレイサリツ小学校での新校舎落成式の会場で、シエムリアップ・アンコールワットLCから「トンレサップ湖(プノンペンの北西、シエムリアップの南に位置する大きな湖)の水上生活者に、簡易浄水器を配る事業に取り組みたい」という要望が出ました。

昨期、誕生したばかりの新クラブから具体的なアクティビティの提案が出たことはとても素晴らしいことで、さっそく、船橋中央LCのL藤原宏高がLCIF(ライオンズクラブ国際財団)に交付金の申請をされました。



◀子供達の多くは裸足かサンダル。それが運動靴になるまでC.L.C.Pの支援が必要。

なぜクラブは弱体化するのか

「文 地区情報委員長」 山平野寛明

何事にも栄枯盛衰があるのは仕方のないことではあるが、枯れるのも衰えるのもなるべく先延ばしにしたいのが人情である。ましてクラブの生き死にとなれば、地域に対する責任という観点からしても極力長らえるようにしなければならない。では、なぜクラブは弱体化するのかを考えてみよう。

現状のクラブ数

会員数は？

我々が333-C地区は遡ると1981年7月に単県独立した。今年はその33年目となる。ではその会員数ならびにクラブ数の変転はというと、初代のL式場・L吉原キャビネットでは会員数3,268名、クラブ数71クラブである。前年度のL長澤キャビネット終了時の会員数が3,479名、クラブ数が140クラブであるから、33年前と比べてクラブ数は倍増し会員数はさほど増えてはいないということになる。因みに会員数が一番多かった年は1995-96年のL林静誠キャビネットの4,701名

で110クラブある。

会員数の増減についても額面の数字だけでは実態が解らない。例えば賛助会員制度が出来たのは1997年のフィラデルフィア国際大会からであるし、正会員の一部である「家族会員プログラム」が施行されたのは2006年のボストン国際大会からである。また優待会員は正会員として15年以上在籍したメンバーでなければならぬし、終身会員は20年以上正会員として在籍し70歳以上でなければならぬ。資料はないが、30年前に今ほど終身会員や優待会員が多かったとは考えづらい。説明するまでもなく、賛助会員や優待会員、終身会員には例会出席の義務はない。恐らくどのクラブでも正会

員より会費が低く設定されているはずだし、終身会員にいたっては会費を免除している場合がほとんどではないか。

これらを踏まえて導き出される結論は、昔と比べて会員一人一人の負担が重くなっているということである。単純に計算してみよう。初代L式場・L吉原キャビネットのメンバー数をクラブ数で割ってみると1クラブ当たり46名となる。これをL長澤キャビネットの数字で計算すると24名である。46名の中には賛助会員も家族会員も存在しないが、24名の中には存在しうる。こゝなるとクラブやアクティビティの維持を昔より少ないメンバーで行わなければならないのがハッキリとしてくる。

また、役職等を勤める回数が増える可能性もある。50名のクラブならばクラブ会長は生涯で一回だけかもしれないが、会員数の少ないクラブであれば会長や幹事を複数回務めたメンバーがいるのは珍しいことではない。会員数が多いクラブは人間関係など別の面で苦勞をする向きもあるが、単純に労力や時間的負担という意味では会員数が多い方が楽なのは客観的事実となる。クラブの運営からアクティビティ、会員増強まで少ないメンバーでこなすのは、相当熱いモチベーションがなければ上手いかないかもしれない。

クラブの弱体化とは どういうこと？

本稿はテーマを漠然と「なぜクラブは弱体化するのか」としているが、では、クラブが弱体化するとはどういう状態を指すのか？色々な見方があるが簡単に言えば、

・正しくクラブを運営しアクティビティを維持しうるだけのメンバー数が在籍していないクラブ

ということになる。

ライオンズクラブは奉仕団体である。アクティビティを行わないクラブはライオンズクラブたる意味がない。目的を失えば早晩瓦解するのが道理ではないか。アクティビティが正しく行われているということは、クラブが正しく存在しているというシグナルなのである。クラブは地域社会や国際社会のニーズに応えてアクティビティを行い、継続していく使命があるはずである。その使命を履行し続け得ないクラブは弱体化したクラブであり、地域においてライオンズクラブがそういう状況になるということは、社会において大きな損失なのだとことを、メンバーは理解しなければならないはずだ。では、どういうクラブが弱体化するのだろうか。これはいくつかのパターンに分類されるが、大きく分けるとこうなる。

a. 一握りのメンバーによってクラブの意思が決定されてしまうクラブ

b. アクティビティを見出せないクラブ、アクティビティに誇りや責任

感を持たないクラブ

c. アクティビティを継承しうる後継者を見出せないクラブ

これらのクラブには、あるいはこういったクラブになりかかっているクラブには必ずシグナルがある。それを考察してみたい。

a. 一握りのメンバーによってクラブの意思が決定されてしまうクラブ

まずaパターンのクラブ。具体的にはライオン歴が長いメンバーや年長のメンバー、そして押しの強いメンバーにクラブの意思が決められてしまうクラブ。簡単に表現すれば「ボスがいるクラブ」である。

若年者であろうが年長者であろうが、男性であろうが女性であろうが、ライオン歴が長からうが短からうが、国際会長であろうが会員一年生であろうが、正会員は皆正会員、平等である。クラブ運営において意見をいう権利があり、決議において平等に一票を持つ会員なのである。クラブを正しく運営する。つまり国際協会の方針に則って、そして正しい問題意識と理事会や委員会等による討議、例会において全ての会員

による正しい議決を経ない運営がされているのであれば、会員数が50名いるクラブであろうといずれ弱体化するはずである。そして一握りのメンバーやボスによって運営方針や諸事が決められてしまっている場合、必ず不満を感じているメンバーがいるはずである。これが弱体化のシグナルである。そうになると恐らく闊達な討論などは期待できず、一部の人が話がしているだけの例会になるはずだ。名門クラブなどでよく聞く話だが「入会して一年目など、恐れ多くて例会で意見などさせてもらえなかった」などということでは、余程人格が陶冶されていないか

り、例会から足が遠のき、退会ということになるのではないだろうか。

クラブ運営の基本は例会である。例会を楽しくすることがクラブを楽しくする原点である。それには自由闊達な雰囲気と、クラブを率いる「ボス」ではなく「リーダー」が必要なのではないか。

b. アクティビティを見出せないクラブ、アクティビティに誇りや責任感を持たないクラブ

では次にbパターンである。アクティビティを見出せないクラブとは。これは特にエクステンションされて歴史の



浅いクラブに多いパターンである。周知の通り、333-C地区は他地区に比べて意欲的にエクステンションに取り組んできた。歴代キャビネットが会員増強の方法としてクラブエクステンションを重要視してきたのも事実だ。それはある面では成功もしたし、国際協会の方針とも合致している。まず、クラブは20名のメンバーが揃わなければ結成できない。そして既存のクラブの人間関係に新会員を招くよりも、初めから20名を選入して入会させる方が、言い方は悪いが「手っ取り早い」のも事実である。そしてクラブをエクステンションする方が、既存のクラブに会員を招請するよりモチベーションが上がるのも確かである。しかし、エクステンションしてそれで終わりというクラブが多いのもまた事実ではないか。ライオンズクラブの運営の基本がわからず、クラブが取り組むアクティビティが無い。あるいは見出せない。せっかく奉仕を志向するメンバーが揃っても、その対象を見出せなければいざ退会ということになる。であるからクラブエクステンションは出来ておしまいではなく、二年以内に自分たちのライオンズクラブとしての存在意義を確立できるかどうか。アクティビティを確立できるかどうかでその正否が決まると

いっても過言ではない。そうでないとクラブ運営が無手勝流となる。例えば例会がきちんと運営できない。国歌斉唱やライオンズヒム、また会う日までを歌わない例会。クラブ備品がきちんと整備されていないクラブ。委員会や理事会が機能しないクラブ。これらは新しいクラブでなくても、クラブ弱体化のシグナルといえるが、特に歴史が浅く指導がなされないクラブでは、そういう所から上手くいかなくなってくる。そうするとアクティビティのニーズが拾い上げられなくなるし、アクティビティは運営できなくなる。せっかく作ったクラブも「仏作って魂入れず」の状態となる。なんとももったいない話である。

c. アクティビティを継承しうる後継者を見出せないクラブ

では最後にcパターン。実はこれは意外ではあるが、基本に忠実に、そして老舗クラブに意外と多いパターンである。例えば地元の日那衆を中心に結束したクラブがあるとする。立派にクラブを運営し、アクティビティでは地元から感謝もされている。チームワークは抜群で、アクティビティも例会も楽しい。年に一回の旅行を兼ねた移動

例会など、ほぼ全てのメンバーが参加するほどだ、といったクラブだ。もしかしたら戦後日本をがむしゃらに働いてきた世代に多い類型かもしれない。大変失礼な言い方だが、働くことに夢中で後継者育成が出来なかったのではないですか?、と問われるとドキッとする方が少なからずいるのではなからうか。クラブにもそのままの類型が通用してしまうクラブ。それがcタイプである。

どうしたらクラブの弱体化を防げるのか

どうしたらクラブの弱体化を防げるのか。それぞれのパターンでミクロには色々方法があるだろうが、まず今期、L正木守地区ガバナーは「楽しい例会」を奨励している。そして楽しい例会のためには「正会員20名」が必要なのだとも繰り返し説いておられる。「5名でも楽しく例会をしている」と主張されるクラブもあるだろうし、恐らくそれは事実なのだろうが、5名の話題量と20名の話題量を比較してみたらどうだろうか。年に24回行う例会。いつも新鮮な話題や楽しさが増える可能性は5名より20名のクラブの方が多いはずである。ガバナーの口癖であるが「楽し

くなければライオンズではない」のである。

楽しい例会とは取りも直さず「風通しのいいクラブ」を意味する。若手メンバーが何をしがっているのか。こういったアクティビティが世間では求められている。あのアクティビティはこうするととくと良くなる。地域のあの人はライオンズに入会してくれませんか。楽しい例会が及ぼすであろう効果は無限大である。そしてふとしたことから、次世代のリーダーが育つかもしれない。若手は夢を語り、年長者が歴史を語る。そしてみんなで問題意識や使命を共有する。恐らくどちらを欠いても、組織の構成として歪だし、継続性を担保し得ないのではない。全ての源泉は楽しい例会にあり、なのである。

楽しい例会の仕方は千差万別。如何様にも工夫が出来るはずだ。それぞれのクラブの特性に合わせて、あるいはメンバーのタレント性に併せて企画してみよう。年に24回しかないと思えるのか、24回も有ると考えるのか、例会運営の仕方一つで雰囲気は必ず変わるはずである。ただし失敗をよく耳にするのも例会の仕方である。必携には載っていないけどもコモン・センス(常識)といっている

例会運営のセオリーがライオンズにはある。これは歴史の積み重ねであって、これを安易に崩してしまうことは、逆にクラブを崩壊させてしまうことになりかねない。例えば国歌やライオンズヒムを歌わないといったことである。必携には確かにそれらを歌うとは記載されていないが、国歌を斉唱することは「よい公民の団体であること」を称揚することと同意義であると見なせるし、ライオンズヒムやライオンズの歌を斉唱することは「友情・親善・相互理解のきずな」を涵養することに他ならない。その所を次第に緩めていくことがクラブ荒廃に繋がることは想像に難くない。

では、既に会員数20名を切ったクラブはどうしたらいいのか。先ずメンバー全員で現状を認識することである。なぜメンバーが減ってしまったのか？クラブ規模に比してアクティビティで無理をしすぎているのか。高額な金銭アクティビティにばかり目がいきすぎてはいないか。クラブ三役のみに全てを押しつけてはいないか。上げればキリがないが、そういった問題を会員で討議してみることが先ず重要だ。そして「他を知る」ことである。他のクラブはどうやって運営しているのか、他クラブを例会訪問する。あるいは地区役員等に例会に訪問してもらう。クラブの

雰囲気を変えるためにも、そうした工夫が必要ではないか。

そして何よりも、「燃えてみる」ことである。自分たちクラブの地域社会における使命を再確認する。そして奉仕に再び燃える。そして感動を体験することである。そのためには会長がよいリーダーとなり、先頭に立って燃えてみる。あるいは若手や女性のリーダーを見出して、そのリーダーにクラブを「再点火」してもらう事も一方策ではないか。使命感に燃えてみることである。

公認ガイディングライオンチームの助勢を仰ぐ

前号で報じたとおり、333-C地区では全国で唯一、国際協会認定の公認ガイディングライオン研修を行っている。公認ガイディングライオンとは従来、クラブエクステンションの際に2年間、新クラブを指導する役職であったが、今年度より新たに、既存クラブ再建のための指導や助言を行うことがその役割に加わったのである。クラブに自力再建する力が残っていればよいが、もうその力が無い場合、あるいはクラブ再建の意思があってもノウハウが無い場合、公認ガイディングライオ

ンの助勢を仰ぐのも一計である。先般、当地区内の公認ガイディングライオン有資格者の中から公認ガイディングライオンチームがL正木地区ガバナーによって任命された。公認ガイディングライオンチームはガバナー命令で既存クラブに例会訪問することとなっている。例会に訪問し、各クラブの悩みをお聞きする。そしてクラブを再活性化させるための施策を共に考えていくのがこのチームの役割となる。

L正木地区ガバナーは各リジョンの公式訪問で「会員増強を一番には考えておりません」と話されていた。そして「楽しい例会」を称揚され、公認ガイディングライオンチームを稼働された。これは言い換えれば「量から質」への転換と取ることも出来る。そしてそのための様々な研修会も企画している。ぜひ視点を変えて、楽しいライオンズライフに向けてもう一度クラブ一丸となって燃えてみてはどうだろうか。

公認ガイディングライオンチーム

- L 吉原稔貴 (市川)
- L 斎藤和行 (木更津中央LC)
- L 若林 一 (木更津金鈴LC)
- L 粕谷達郎 (富津)
- L 庄司辰二郎 (市原LC)
- L 林 和意 (四街道順天LC)
- L 密本高志 (佐倉中央LC)
- L 谷島重夫 (行徳リバーサイドLC)
- L 大西智子 (船橋さざんかLC)
- L 安見一美 (千葉花見川LC)
- L 林 一智 (成田エアポートLC)
- L 宋 如芳 (飯岡LC)

第2回キャビネット会議報告

2013年11月23日(土)、千葉県経営者会館において第2回キャビネット会議が開催された。会議にはL後藤隆一元国際理事はじめ、L長澤千鶴子前ガバナー、各ゾーン・チェアパーソンと各委員長が出席した。

会議は午前中に予備会議に始まり、午後の本会議と続く。L正木地区ガバナーより、地区ガバナー公式訪問での暖かい歓待に対し謝辞が述べられ、続いてL後藤元国際理事より国際協会の情勢やフィリピン台風被害に関する説明。L長澤前ガバナーよりは、夢実現のためにより一層の活躍をとの激励の挨拶があった。

なお、当日会議で諮られた議案は左記の通りであり、全て原案通り可決した。

地区ガバナー提出議案

1. 次期地区ガバナー候補者推薦の件
333-C地区の次年度地区ガバナー候補者として、(立候補届)の提出があった現第一副地区ガバナーL波木奏美(千葉ゆうきのLC所属)の推薦を提案いたします。
2. 次期第一副地区ガバナー候補者推薦の件
333-C地区の次年度第一副地区ガバナー候補者として、(立候補届)の提出があったL吉原稔貴(市川LC所属)の推薦を提案いたします。
3. 第60回333-C地区年次大会
議事規則等の承認の件
年次大会議事規則、大会予算(案)、議事運営構成表(案)を別紙の通り提案致します。
4. 次期キャビネット構成員等研修会、
次期クラブ三役研修会の件
1) 次期キャビネット構成員等研修会
期日 2014年5月17日(土)
於 カンデオホテルズ千葉

- 2) 次期クラブ三役研修会
期日 2014年5月24日(土)
於 カンデオホテルズ千葉

5. 333-C地区年次大会アワード
規程補足の件
第1回キャビネット会議資料P31~32の333-C地区年次大会アワード規程について別紙のとおり補足したい。
また、委員長提出議案も下記の通り原案可決した。

委員長提出議案

1. 財団法人千葉県アイバンク協会に対し、本年度も献眼登録を各クラブの自主的な判断により、クラブ又は個人のアクティビティとして、ご支援賜りたく、ご勸奨戴きます様宜しく申し上げます。
2. 日本網膜色素変性症協会(JRPS)に対し、本年度も各クラブの自主的な判断により、クラブ又は個人のアクティビティとして、ご支援賜りたく、ご勸奨戴きます様宜しく申し上げます。

また、各ゾーン・チェアパーソンよりは各ゾーンの現況が報告され、委員長からは報告並びに要望事項が伝達された。また、L山田實紘国際第二副会長提唱の会員倍增計画についての説明並びに333-C地区の対応が懇切丁寧の説明され、下半期に向かっての意気込みが感じられるキャビネット会議となった。終わりにL長澤千鶴子前地区ガバナーに国際会長感謝状が、L吉原稔貴第二副地区ガバナーに上位リーダーシップ研修会修了証が授与され閉会となった。



f フェイスブック

使ってみませんか

【文 地区情報委員長 し平野寛明】

 **フェイスブック
ご存じですか？**

フェイスブックをご存じだろうか。

近年爆発的に普及したSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の一つで、アラブ諸国で起きたいわゆる「アラブの春」もこのフェイスブックやツイッター等で結びついた若者達が起こしたとも言われている会員制インターネットサービスの一つである。

インターネットは本来、不特定多数に情報を発信するツールであって、例えば特定の購買層や年齢層に情報を発信することには向いていなかった。情報はその対象を明確にして発信した場合と、対象を広範囲にして

発信した場合とではその性質も、訴求性も違ってくる。情報の発信者と受信者の方向性が一致した時に初めて情報は戦略的になり得るのであって、不特定多数に対して発信された情報の効果というのは、ある程度限定的にならないを得ないのである。

SNSは基本的にインターネット上の登録制サイトであるために、ユーザーが様々なカテゴリーで分類しやすいのである。例えばフェイスブックを例に取ると、性別・年齢・出身地・出身学校から所属会社、宗教、政治観、趣味や好きな映画や音楽まで様々なカテゴリーで登録できる。フェイスブック上では他のユーザーと「友達」になることで交流の輪が広がっていく。「友達」は自分で探すことも出

来るし、システムが友達候補を、その人の登録したある来歴と照らし合わせて推薦してくれる。例えば永年直接会っていない高校の同級生とも、お互いがフェイスブックに出身高校を登録しておけば友達候補にリストアップされ、友達になることが出来るのである。

 **手軽に新鮮な情報が
提供できる利点**

情報化時代などと言われて久しいが、それを前提に話を進めると、情報は世に出た瞬間に陳腐化が進行するのである。したがって、情報はタイムリーに発信されねばならないし、正しい形で集積されねばならないの

である。

いわゆるIT革命以降、様々な企業や団体がホームページ（以下、HP）を立ち上げて、情報発信のツールとしている。これだけ世間にHPが増えてくると「いいHP」と「ダメなHP」とに峻別できる様になってくる。ではいいHPの条件とは何か。まず最初に見た目という人は多いかもしれない。HPの配置も技術の進化と流行によって毎年変化している。しかし見た目などというのは情報ツールとしては二次的な観点であって、いいHPを規定する本質ではない。では何をもって「いいHP」なのかというと、タイムリーに情報が更新されているということにつきる。そこに更に「いい情報」という





のも付け加えるべきかもしれないが、情報の出来不出来というのはHPが決めるものではなく、情報の発信体が「いいネタ」を提供できるかに左右される。新聞が毎日発刊されていても、いいネタがなければただの紙なのである。

例えばビジネスの世界では、様々な雑誌媒体にその購読層に併せて広告を載せたり、テレビ番組の視聴者層に併せて広告を打ってきた。そして顧客データが揃ったらダイレクトメールを打つという手法が永らく一般的であったし、それらの手法は大変な資金や労力が必要なものである。

その広告の世界に革命を起こしたのがインターネットである。HPや電子メールは、従来の媒体に比べてきわめて安価かつ人手をかけずに、そしてきめ細やかに消費者に直接訴えることが出来るのである。いまや一定程度規模以上の企業でHPを持たないというのは考えられないこととなりつつある。

毎日ホームページを 更新出来ますか？

インターネットの普及によってHPは雨後の竹の子のごとく氾濫している。そうした中でいわゆるダメなHPは何かというと、「更新されていない」HPである。例えばライオンズに当てはめて考えてみよう。どのクラブも会員増強をしたい。若いメンバーを増やしたいと考えている。そして今時クラブのHPくらいなければいけないと考える。そうして大半のクラブでは予算を組んで業者にHP作成を依頼したり、そういったITスキルがあるメンバーに任せたりする。HPは出来た。見てみるとトップページにクラブ三役の写真が載っていたり会長スローガンが載っていたりする。業者はネタがクラブ

から寄せられないかぎり更新出来ないし、任せられたメンバーもHPの管理とコンテンツ集めを同時に行うのは大変だから、だんだん更新されなくなる。終いには2年前の三役の紹介でページが止まっているなんて事は、恐らくザラにある。そうしたHPを見て、やる気のある若者はどう思うか。恐らく「ダサイ」と思っ

スマートフォンさえ あれば出来る

iPhoneの発売以来、スマートフォン

の一台あれば出来る。そして誰でもどこでも投稿が可能である。しかも基本的にはコストが一切からない。操作が簡単とはいわないが、少々訓練すれば出来てしまう。そしてフェイスブックが普通のHPと違う点は、反響が解るといふことである。投稿された記事に対して見た人がコメントを入れたり、「いいね」と賛同するボタンがあるのである。

考えてみてほしい。例えばクラブでスポーツ大会を主催した。運営に後片付けで手一杯。イベントが終了して数日後にメンバーから写真を集めて、誰かに記事を書いてもらいHPに投稿。しかし誰か読んだかも感想も解らないし、もしかしたら誰も読んでいないかもしれない。苦勞の割に欲びに繋がらないのではない。しかしスマートフォンとフェイスブックさえあれば、誰でもその場でスマートフォンで写真を撮影し、コメントを添えて投稿できるし、コメントを見ることが出来る。リアルタイムに情報が発信でき、その分野で興味がある人が見に来るようになれば誘導される。そして反響が得られるのである。

ガバナー公式訪問はどのリジョンでも無事盛大に終わったが、実はし正

フェイスブックを 導入してみて下さい

実は今年度の地区ニュースでは、従来のように各クラブよりのニュース投稿を一律に載せることはお叱りを受知していない。それは読み物として内容に方向性と訴求性を持た

木ガバナーは少々困っておられた。何をかという、いくつかのリジョンでメンバーがガバナーの話をスマートフォンでビデオ撮影し、フェイスブックにアップしていたのである。ビデオが残っているので同じ話が出来る。したがってご自身の意を伝えるために手を変え品を変え表現なされていた。多数のメンバーからフェイスブック上で「正木ガバナーは熱い」と感想が寄せられていたが、嬉しいと同時に緊張の連続だったに違いない。「フェイスブックって凄いいけど困っちゃうなあ」と苦笑されていた。つまり技術の進歩によって、情報は特定の能力や地位を持つ人の専有物ではなくなり、誰でも送受信可能な普遍的なものとなったのである。アラブの春が起きたのも、一部の国ではインターネットが制限されているのもこういった流れに起因する。

せたいがための編集方針である。紙幅と予算が限られた中で、地区ニュースは誰を対象とした情報の発信なのか、そしてどの様な情報を求めているのかということを考えた時に、寄せられたニュースをそのまま転載するということは出来なかった。その代わり、情報委員会としては各クラブにフェイスブックの導入をお勧めしている。

フェイスブックを導入すれば、情報の発信が楽に、そして予算を掛けなく出来るし、タイムリーに発信できる。そして普通のHPよりもはるかに多くの人に、なによりもライオンズに興味がある人に、あるいは地元の人ある人たちに見てもらえるように仕向けることが出来る。しかし何よりもオススメしたいポイントが、繰り返しになるが反響が解るといふことなのである。「いいね」とボタン一つ押すだけでも反響に繋がる。自分の投稿に沢山の「いいね」が押される。また、励ましや色々な助言のコメントが寄せられる。アクティビティを行う前に告知の投稿をすれば、他クラブからの見学者もあるかもしれない。色々と繋がりを持つ可能性があるのである。フェイスブックである。

各クラブには是非とも導入をご検討いただきたい。導入について指導が必要であれば、リジョン単位で説

明会を情報委員会が開催しますので、是非リジョンの情報委員にご相談下さい。お待ちしております。

ライオンズクラブ国際協会 333-C地区
9月14日

地区ガバナー L正木ガバナー
公式訪問合同例会にて
正木ガバナーのわかりやすく、熱い熱い挨拶。

いいね！・コメントする・シェア

高木次雄さん、金屋英さん、田本高志さん、他29人が「いいね！」と書っています。

高木次雄 低く見よう！
9月14日 18:07 (携帯より)・いいね！・お2

伊藤 純子 今日の新聞に掲載されていましたね。
9月24日 22:27 (携帯より)・いいね！・お1

コメントする

245人がこの投稿を見ました

↑1 Rガバナー公式訪問でのL正木地区ガバナー挨拶の様相を知らせるフェイスブックページ。245人がこの投稿を見たことがわかる。

→高木国際大会委員長からの野田竜巻被害に関する一報もフェイスブックから行われた。災害時の応用も可能なことを証明した。

高木次雄
9月22日、野田市竜巻被害

被害状況！

いいね！・コメントする・シェア

高木次雄
9月22日

統一でブルーシート50枚、ウェス等メンバーのし中崎に届けました！
会費が助成に動いてくれたので出来た！

ライオンズクラブ国際協会 333-C地区

第60回

地区年次大会 のご案内



大会テーマ

同志の集いを上総の地にて

地区年次大会 登録料 4,000 円

日時: 2014年4月20日(日)

- ・代議員受付／ 9:30～9:50
- ・一般受付／ 10:00～10:50
- ・大会式典／ 13:30～15:00

-
- ・代議員総会／ 10:00～10:50
 - ・記念講演／ 11:00～12:00
 - ・ミニコンサート／ 12:45～13:15
(きみつ少年少女合唱団)

会場 (木更津市)

かずさアカデミアホール／年次大会

オークラ アカデミア パークホテル／前夜祭&レオ地区大会

※上記の両会場(施設)は、隣接しております。

前夜祭 登録料 10,000 円

日時: 2014年4月19日(土)

- ・受付／ 18:00～18:50
- ・前夜祭／ 19:00～21:00

レオ地区大会

日時: 2014年4月19日(土)

- ・受付／ 15:30～16:20
- ・大会／ 16:30～18:00

カーナビ住所／木更津市かずさ鎌足2-3-9
TEL.0438-20-5555 (かずさアカデミアホール)

年次大会委員長挨拶

L松田芳己

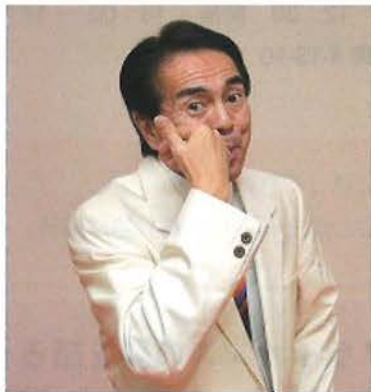
地区ガバナー L正木守のもと10R全メンバーが手づくりの年次大会を目指し奮闘中です。大会テーマが「同志の集いを上総の地に」です。楽しい年次大会を皆様と共に創りたいと考えます。C地区各クラブメンバーの皆様、ご参加を心よりお待ちしております。

記念式典 2014年4月20日(日)

“ライオンズクラブライフを楽しくしよう”というガバナーの言葉どおり、楽しい年次大会を目指します。また、上総地域の物産店やお食事会をお楽しみください。地区メンバー皆様と手をつなぎ、笑顔と感動の年次大会を共有したいと存じます。

記念講演 江戸家 猫八 師匠

“笑い与健康”をテーマに講演。
“笑い”による健康効果について、伝統芸のもののまねでその実感を伝えます。TVでもおなじみの動物ものまねを中心とする多彩なレパートリーをご堪能ください。
その芸は高い評価を得ており、2004年には文化庁芸術祭優秀賞受賞するなど、受賞歴も多数。(2009年11月1日、4代目江戸家猫八を襲名。)



地元上総の物産販売

地元上総の農産物、海産物、加工食品、お酒、その他商品の特設会場で販売致します。
お土産としてぜひご利用ください。

記念式典会場



式典アトラクション ミニコンサート きみつ少年少女合唱団

君津市は、「子どもたちの芸術文化と豊かな人間性の育成」を目指し、「きみつ少年少女合唱団」を設立。一昨年、市制40周年記念事業としてオーストリアへ渡り、ウィーン少年合唱団と共演。また、海外で磨き上げた歌を被災地復興応援コンサートで披露。歌声と寄付で被災された方々を励ますなど、活動の幅を広めています。



前夜祭 林ゆたか&パームスプリングス

林ゆたか氏(ヴィレッジ・シンガーズ:ドラム)率いるバンド仲間で結成されたグループ。昭和30~40年代のオールディーズ・サウンドで青春時代にタイムスリップ。歌と演奏をお楽しみください。



レオ地区大会 2014年4月19日(土)

第18回333-Cレオ地区大会を開催します。
皆様のご参加お待ちしております。

※都合により一部内容を変更する場合もございます。

年次大会の登録について

※今年度の年次大会登録は、「eMMR ServannA」より行って頂きます。
運営の簡素化のためご協力お願い申し上げます。
なお、登録開始は平成26年1月1日からとなります。

1. マンスリー報告と同じ方法で「eMMR ServannA」にログインします。
2. 左側のメニューから「地区イベントに参加」をクリックする。
3. 上部の「イベントの選択欄」から「第60回地区年次大会」を選択する。
4. 下部「会員氏名」欄の「選択してください」をクリック。
5. 「クリックして会員を選択」をクリックして会員一覧から参加者を選択する。
6. 参加者が複数いる場合は、上記4~5を繰り返す。
7. 参加者氏名が画面に転記されたら、右の各登録項目を選択する。
8. 全員の各項目の選択が済んだら、右上の「会員一覧を登録する」をクリック。

地区大会ホストクラブ

10R-1Z / 木更津LC、木更津中央LC、袖ヶ浦LC、木更津金鈴LC
10R-2Z / 富津LC、上総LC、君津LC、君津中央LC、君津プラチナLC

～リーダーシップを育成しクラブを活性化させる～

地区リーダーシップ&CEPセミナー

【日 時】 平成 26 年 1 月 18 日 (土) 受付 / 13:00 13:30 開始

【会 場】 カンデオホテルズ千葉

【登録費】 未定

ポイント

- ・活動や運営が停滞がちなクラブに、元気を取り戻すヒントがたくさん詰まっています。
- ・CEP セミナーのダイジェスト版を体験しながら、クラブを元気にできるかを考えてみよう。

～若者の思いのたけを聞こう！～

第33回高校生スピーチコンテスト

【日 時】 平成 26 年 1 月 25 日 (土) 受付 / 12:30 開催 / 13:00 ~ 17:00

【会 場】 千葉県教育会館 千葉市中央区中央 4-13-10

【登録費】 無料

ポイント

- ・歴史ある千葉県高校生弁論大会です。レベルの高さにびっくり
- ・高校生の弁論と甘く見ることなかれ。気づかされることがたくさんある弁論に期待。

～理想のライオンズライフとは？ライオンズの夢を語ろう～

フォロー・ユア・ドリーム(あなたの夢を語ろう会)

【日 時】 平成 26 年 3 月 8 日 (土) 午後～

【会 場】 カンデオホテルズ千葉

【登録費】 未定

ポイント

- ・ライオンズライフを送る上での夢を語り合ってください。
- ・他人の夢に触発されたり、新たな夢が芽生えること間違いなし。

～ライオンズよ暗闇と戦う盲人のための騎士たれ～

第2回ヘレン・ケラーを学ぶ会

【日 時】 平成 26 年 3 月 15 日 (土) 午後～

【会 場】 三井ガーデンホテル千葉

【登録費】 未定

ポイント

- ・視力関係アクティビティが何故ライオンズクラブのお家芸となったのかを歴史をひも解いて説明する。
- ・アイバンクに対するより一層の理解を深めてみませんか。

地区情勢

2013年11月30日現在

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
1	1	2	1	1	112
	2	3	6	-3	152
計		5	7	-2	264

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
5	1	3	4	-1	154
	2	5	4	1	135
計		8	8	0	289

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
9	1	1	4	-3	201
	2	1	7	-6	149
	3	1	7	-6	218
計		3	18	-15	568

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
2	1	4	1	3	138
	2	5	2	3	109
計		9	3	6	247

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
6	1	10	6	4	189
	2	8	0	8	101
計		18	6	12	290

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
10	1	15	7	8	91
	2	5	8	-3	160
計		20	15	5	251

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
3	1	6	10	-4	103
	2	9	13	-4	203
計		15	23	-8	306

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
7	1	10	2	8	90
	2	0	3	-3	88
計		10	5	5	178

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
11	1	1	6	-5	61
	2	6	8	-2	163
計		7	14	-7	224

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
4	1	4	1	3	128
	2	3	5	-2	114
計		7	6	1	242

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
8	1	0	6	-6	202
	2	4	4	0	120
	3	3	5	-2	126
計		7	15	-8	448

R	Z	入会	退会	増減	在籍数
12	1	5	7	-2	91
	2	1	4	-3	75
計		6	11	-5	166

	入会	退会	増減	在籍数
地区合計	115	131	-16	3473

編集後記

皆様に地区ニュース第2号をお送り致します。何事もなければ本号は、盛會に開催された東洋東南アジアフォーラムが巻頭記事を書き添えるところではありましたが、皆様ご存じの通り、フィリピンを巨大台風が襲来し、甚大なる被害が発生したため、痛ましい写真が巻頭に掲載される運びとなりました。ご存知の通り、日本初のライオンズクラブである東京ライオンズクラブは、フィリピンのマニラライオンズによって結成されました。言うなればフィリピンライオンズは日本ライオンズの父であり母であります。報告記事の通り、現地のセブのキャビネットに330万円の義捐金を送ることが出来ましたが、ぜひ皆様のお志を一口三千円の形でお寄せ頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。

我が国を取り巻く国際社会は日々変化をしております。そして我々ライオンズクラブが社会より求められる役割も、また社会の価値観も自ずから変化しております。そうした現状と未来とを見据え、そして来るべき山田實紘国際会長誕生を念頭に置いてのガバナーチーム鼎談「多面的ライオンズ像の創造」を異例の分量であります掲載致しました。ガバナーチームが何を考え、そして地区をどの方向へ進めていきたいのか、公式訪問等では話されない内容が満載の鼎談ですので、ぜひご熟読ください。

ところでL正木キャビネットが船出をし、半年が過ぎ去ろうとしております。各リジョンにおかれてはガバナー公式訪問での温かいご接待、誠に有り難うございました。ガバナーの志の熱さをそれぞれ体感されたことと思います。ぜひその熱さを各クラブに持ち帰り、アクティビティへとつなげていただければ必ずや「楽しいライオンズクラブ」への道が拓けるはずと、筆者もいくつかのリジョンに同行訪問しまして直感したところです。キャビネットは熱さを持続したまま後半戦に突入致します。ライオンズの熱さと楽しさを皆様も満喫されて、地区年次大会で一同に会せればと願わずにはいません。「同志の集いを上総の地に――」

(L平野)

【発行日】 2013年12月20日
 【編集人】 地区情報委員長 L平野寛明
 【発行人】 地区ガバナー L正木 守
 【発行行】 ライオンズクラブ国際協会333-C地区
 〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-3 千葉県経営者会館4F
 電話 043-243-2528 FAX043-247-4756 URL <http://lionsclub333c.org/>
 【表紙デザイン】 A10 【印刷】 (有)マサキ印刷 〒292-0801 千葉県木更津市請西2-12-14



Lions Club
International District
333-C

We Serve